

令和2年度

地域魅力化応援隊員業務報告書

<総括表>

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します



益田市政策企画局人口拡大課

(1) 令和2年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 6
(3) 吉田地区	P. 7～P. 9
(4) 高津地区	P. 10～P. 11
(5) 安田地区	P. 12～P. 15
(6) 鎌手地区	P. 16～P. 18
(7) 種地区	P. 19～P. 22
(8) 北仙道地区	P. 23～P. 26
(9) 豊川地区	P. 27～P. 30
(10) 真砂地区	P. 31～P. 34
(11) 西益田地区	P. 35～P. 38
(12) 二条地区	P. 39～P. 42
(13) 美濃地区	P. 43～P. 44
(14) 小野地区	P. 45～P. 48
(15) 中西地区	P. 49～P. 51
(16) 東仙道地区	P. 52～P. 55
(17) 都茂地区	P. 56～P. 59
(18) 二川地区	- (不在)
(19) 匹見上地区	- (不在)
(20) 匹見下地区	P. 60～P. 63
(21) 道川地区	P. 64～P. 67
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 68～P. 69

【地域魅力化応援隊員とは】

総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区に配置しています。

令和２年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田公民館	益田地区	藤井 洋司	平成 30 年 6 月
2	吉田公民館	吉田地区	石田 令子	平成 30 年 4 月
3	高津公民館	高津地区	梅津 梨紗	平成 29 年 4 月
4	安田公民館	安田地区	尼子 達夫	平成 27 年 5 月
5	鎌手公民館	鎌手地区	横田 裕見子	平成 30 年 4 月
6	種公民館	種地区	岩永 千登勢	令和元年 6 月
7	北仙道公民館	北仙道地区	三宅 望実	令和 2 年 9 月
8	豊川公民館	豊川地区	岡崎 友臣	平成 26 年 4 月
9	真砂公民館	真砂地区	岸本 真樹	平成 27 年 8 月
10	豊田・西益田公民館	西益田地区	大畑 咲絵	令和元年 6 月
11	二条公民館	二条地区	堀江 宗仁	平成 29 年 4 月
12	美濃公民館	美濃地区	中尾 剛	令和 2 年 12 月
13	小野公民館	小野地区	宮内 英之	平成 30 年 4 月
14	中西公民館	中西地区	石川 祐子	令和 2 年 4 月
15	東仙道公民館	東仙道地区	青戸 美奈子	平成 28 年 4 月
16	都茂公民館	都茂地区	増本 里緒	令和 2 年 11 月
17	匹見上公民館	匹見上地区		
18	匹見下公民館	匹見下地区	藤原 宗則	令和元年 8 月
19	道川公民館	道川地区	高田 純子	平成 26 年 4 月

計 18 名

地域魅力化応援隊員 氏名 藤井 洋司

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

益田公民館

2. 配置年月

平成30年6月から

3. 活動の概要

①活動の内容（地域自治組織設立後の活動支援）

【ますだ地域づくり協議会の活動詳細】

・4月7日 役員会

前年度の事業報告、決算及び監査報告の承認
定期総会の開催について協議（開催方法、日程、議案）



・5月16日 定期総会（書面表決）

前年度の事業報告、決算報告の承認
役員改選について承認
令和2年度の事業計画、収支予算の承認

・6月12日 歴史部会

副部会長の選出について協議
今年度の活動について協議（2つの作業班編成）
地図の試作品について意見交換



・6月15日 安心安全部会

今後の活動について
避難所マップの作成について協議（避難所マップ試作品について意見交換）



・6月17日 ふれあい部会

副部会長の選出について協議
今年度の活動について協議



・7月6日 役員会

各部会からの報告、協議
今後の活動について協議（3密回避のため、今年度は全体会中止を決定）

- 各作業班からの報告、協議
- ・ 8月31日 ふれあい部会
 - 地区内活動団体への聞き取り調査結果報告、意見交換
 - 歴史部会から提案のホームページ開設運営（広報活動）について協議
- ・ 9月14日 役員会
 - 今年度の事業、予算の中間報告
 - 各部会からの報告、協議
 - 今後の活動について協議
- ・ 10月12日 役員会
 - 市議会議員と役員との意見交換会（地域自治組織の現状と課題について）
- ・ 10月19日 歴史部会
 - 各作業班からの報告、協議
 - 各作業班に分かれて協議、次年度の活動について意見交換
- ・ 10月20日 安心安全部会
 - 避難所マップの変更箇所及び印刷用試作品について協議
- ・ 10月29日 ふれあい部会
 - ホームページの構成及び開設準備について検討（作業班編成）
- ・ 11月6日 役員会
 - 各部会からの報告、協議
 - 役員の任期及び再任の意向確認、候補者について協議
 - 石田副会長からの提案説明
- ・ 11月30日 ふれあい部会
 - ホームページの開設に向けて進捗状況報告、協議
- ・ 12月3日 役員会
 - 石田副会長からの提案について協議
- ・ 12月14日 歴史部会
 - 各作業班からの報告、協議
 - 次年度の事業計画について協議
- ・ 12月15日 安心安全部会
 - 避難所マップの配布について協議
 - 次年度の事業計画について協議
- ・ 12月16日 ふれあい部会
 - ホームページの開設について協議
 - 次年度の事業計画について協議
- ・ 12月22日 「ますだ地域づくり協議会」ホームページ公開
- ・ 1月9日 自治会長研修会で安心安全部会・歴史部会から情報提供
 - 「益田地区豪雨・水害時避難所マップ」、「益田地区日本遺産構成文化財紹介地図」の説明と全戸配布への協力依頼
- ・ 1月14日 役員会
 - 各部会からの報告、協議
 - 次年度の事業計画、予算案について協議
 - 役員人事について協議

- ・ 1月19日 「益田地区日本遺産構成文化財紹介地図」全戸配布のため各自治会へ送付
- ・ 2月6日 歴史部会主催、『益田地区日本遺産構成文化財説明会』



- ・ 2月9日 「益田地区豪雨・水害時避難所マップ」全戸配布のため各自治会へ送付

②活動の成果及び効果

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議開催も自粛し2カ月間足踏み状態となった。定期総会は書面表決での開催となり、自治会選出の代議員から直接、質問や意見を聞く機会がなくなった。そこで、各代議員に総会資料を事前送付し、後日、役員が分担して代議員宅を訪問し対面で資料の補足説明や意見交換を行い表決書に記入をしてもらう方法を取り一部の代議員から意見をもらった。

3密を避けて事業を進める方法として、部会の中に数人の作業班を編成して会合を頻回に行う事で進めた。

活動の成果として、ふれあい部会は「ますだ地域づくり協議会」のホームページを開設。地域自治組織の情報発信だけでなく、地区内の活動団体や店舗・企業、趣味のサークルなどが情報発信に使える「益田地区のまとめサイト」として、みんなで活用できる、みんなで育てるホームページを目指している。

歴史部会は、日本遺産構成文化財紹介地図を作成。観光用ではなく、住民に益田地区の史跡・歴史を知ってもらい自慢できるように考えた物で全戸配布し、ホームページも活用しながら地図を使った事業を計画している。

安心安全部会は、「益田地区 豪雨・水害時



協議会のホームページ



益田地区日本遺産構成文化財紹介地図

避難所マップ」を作成。昭和58年の豪雨災害の経験を基に、避難が可能な場所を地図にした。機械警備化により休日・夜間無人になる施設から掲載辞退があり少なくなった。

家の中の見やすい所に貼って使えるようA3サイズで、「我が家の避難場所」、「緊急連絡先」、警戒レベル毎の行動が書き込める仕様になっており全戸配布した。

歴史部会から「インターネットを使って日本遺産のフォトコンテストができないか」という相談から、ふれあい部会で作業班を立上げホームページを開設した。

3部会の成果物が同時期に出来た事、成果物や関連情報を公開・情報発信できる手段を得た事は大きな一歩だと思う。



益田地区 豪雨・水害時避難所マップ

4. 残された課題と今後の提案

今年度は、「小さくても見える成果を出す事」を目標に掲げた。「集う」事ができず、事業を計画通りに進める事が困難となり、現状で出来る事を模索した一年だった。3つの部会が活動する過程で、活動団体の代表者、店舗の経営者、神社・寺院とコミュニケーションを取りながら進める事ができた事の意義は大きい。

インターネットを活用できるようになった事で、若い世代も巻き込みやすくなりそれぞれの世代で違う役割を担いながらまちづくりを進めて行く事が可能になった。益田地区の一番の特徴は文教地区である事。高校が3校、県立の看護学院もあり、地区外からの生徒が多数生活している。他地区にはないこのメリットが十分に活用できていない。若い知識と行動力、他地区からの違う目線と言う貴重な財産を活かしてこそ20年後、30年後のまちづくりができると考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域自治組織設立から2年目の年、見える成果を出す事を目標に活動を進め、3つの部会が同時期に成果物を完成し目標達成できた。

地域自治組織設立までの役員・部会員の苦勞と設立後に部会で話し合った事が初めて形になる瞬間を見る事が出来た。設立までは役員会で決定した事を部会に下ろす形で進んだが、設立後は、部会を主体としたボトムアップに移行する事を意識してきた。役員会は、各部会の活動を支援・調整し協議会としての最終決定を行う。

若い世代の部会員が伸び伸び発言、活動できて想いが形になっていく事が実感できれば仲間づくり、まちづくりが加速すると考える。益田地区の一番の強みは学校が多い事、中学生、高校生との繋がり方がまだまだ不十分だと感じている。介護、看護の学校がある事も大きな強みである。同じ想いで世代を超えて、異なる目線・手法を融合してまちづくりを進めれば大きな結果を生む事ができると考える。

地域魅力化応援隊員 氏名 石田 令子

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

吉田地区

2. 配置年月

平成30年4月

3. 活動の概要

① 活動の内容

1. 定例会（8回）、三役会（7回）および設立総会、説明会（4回）

- ・地域自治組織設立総会準備
- ・規約の検討、決裁権限及び職務分掌、部会マニュアル（内規）作成
- ・希望する自治会（雪舟橋、久城北、乙吉、常盤）にて説明会

2. 安心安全なまちづくり部会 防災班（防災協議会1回、運営委員会4回）

- ・吉田地区防災協議会開催（11月21日） 出席者43名（内自治会32名）
防災講座「みんなで助ける、みんなが助かる」全2回講座の1回目
講師：浜田河川国道事務所 建設専門官 山根千澄氏
- ・吉田地区防災協議会会員名簿作成

3. 安心安全なまちづくり部会 安全班（3回）

- ・見守り活動グループへの支援活動について協議

4. 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会 歴史文化班（3回）

- ・吉田地区内の史跡の掘り起こし 12月4日 乙吉エリアを現地調査
- ・日本遺産講座、意見交換会を開催

5. 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会 にぎわい班（6回）

- ・吉田地区自治協議会のロゴを募集 応募総数：135点
設立総会にて、代議員・考える会委員による投票で決定
- ・今後の活動の方向性について協議

6. 健康なまちづくり部会（5回）

- ・吉田地区内の史跡を巡る健康ウォークコースの選定、距離測定
（歴史文化班との協働活動）
- ・高齢者サロン活動への支援について協議

7. まちづくり研修会（1回）

- ・人材育成のため、連合自治会と共催で研修会を開催 出席者36名

② 活動の成果及び効果

1. 定例会（8回）、三役会（7回）および設立総会、説明会（4回）

内規を定めることにより、設立後に円滑な運営ができる体制を整えました。その結果、それぞれの役割を確認できたので積極的に活動する人が増え、活動に広がりが出てきました。

設立総会では、36名の代議員（委任を含めた出席代議員）により全ての議案が承認されました。

2. 安心安全なまちづくり部会 防災班（防災協議会1回、運営委員会4回）

吉田地区防災協議会へは各自治会の防災リーダーが参加しています。今回の協議会では、研修内容を各自治会へ持ち帰り活用することを確認し、研修を始めました。第1回（11月）は吉田地区で想定される被害状況の説明を受けました。

コロナ感染拡大のため、今期中に2回目を開催できませんでしたが、来期6月を予定しています。それぞれの防災リーダーが地元で同じ研修（マイタイムライン検討）ができるようにするための研修です。これにより、自主防災組織（もしくは自治会）の防災力向上が期待されます。

3. 安心安全なまちづくり部会 安全班（3回）

見守り活動グループへ支援をするためには、意見交換と活動状況查が必要であると話し合いました。見守り活動グループのネットワーク化についても検討しました。ネットワークを作ることにより、同じ場所で同じ時間に複数の団体が見守りをすることがなくなり、技術の向上や必要な備品の共同購入ができるようになります。

4. 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会 歴史文化班（3回）

歴史文化班の最初の活動として、吉田地区内の史跡の掘り起こしをすることになりました。吉田地区には多くの史跡がありますが、具体的に何がどこにあり、現在どのような状態なのかは調査できていません。調査結果を「健康なまちづくり部会」の史跡ウォーク活動に生かすことにより、住民の郷土愛を育てます。

5. 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会 にぎわい班（6回）

自治協議会のロゴマークを決めることで、会員の所属意識が高まり、つながりを強めることができます。特に今回は吉田地区民に公募をし、代議員の投票でロゴマークを決定しましたので、住民の自治組織への参加意識を高めることができました。

また、若い世代の巻き込み方や既存のイベントの見直しを行いました。

6. 健康なまちづくり部会（5回）

来年度以降に健康ウォークイベントを定期的開催する予定があり、コースの選定とその距離を測りました。歴史班と連携することにより、郷土愛を高めることができます。その他、住民同士のつながりづくりや、高齢者が外出するきっかけづくりにもなります。マップも作成し、日常的なウォーキングを促進します。

7. まちづくり研修会（1回）

ほとんどの委員や自治会長は「まちづくり」研修を受けておらず、手探りで活動してきました。今年は昨年に引き続き、益田市内の先進地の活動について話を聞きました。その結果、二条地区と比較しながら、吉田地区自治協議会の活動について考えることができました。

4. 残された課題と今後の提案

自治組織の課題点として、立ち上がったばかりで組織が脆弱なことがあります。いくつかの規則は作りましたが、実際に運用をして調整する必要があります。

設立前の部会では事業について協議してきました。しかし4月以降の一般部員を含めた部会運営については、まだ十分に協議されていません。運営委員だけで独走することなく、一般部員も含めて、会員（住民）の理解を得ながら進めることが大事だと思います。

その他、吉田地区は人口が多いので、運営の透明性確保は特に気を付けるべきだと思います。会員からの質問には、常に根拠を出して説明ができるよう、文書で示し、きちんと整理して残すことが必要です。

設立後2年間は、早急に事業を進めるのではなく、組織の基盤づくりに重点を置くべきと考えます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度は、決裁権限や職務分掌、部会マニュアルを定めてそれぞれの役割が確認できたので、「誰かがすること」が「自分がすること」になり、三役以外の委員さんたちも積極的に活動できるようになりました。来年度からは一般会員の方も活動に参加しますので、より多くの方が自治組織の活動を楽しんで行えるように努めたいと思います。

吉田の未来を考える会（＝設立準備会）の委員はボランティアですが、毎月何度も会議をし、説明会では住民の方からの鋭い質問にも答えておられました。仕事を持っている方もあり、活動は大変だったと思います。しかし、住みよい郷土にしたいという思いで頑張ってくられました。

この1年間、そんな皆さんの熱意に引っ張られて応援隊員活動ができたと思います。

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

高津地区

2. 配置年月

平成29年4月から

3. 活動の概要

①活動の内容

【地域自治組織について】

- ・地域自治組織設立に向け具体的な取り組みを行った。全体会を5回、役員会を7回、各部会会議を1回、自治会長説明会、住民説明会4回、小学校高学年・中学生へのアンケート調査、代議員説明会を行い、令和3年2月6日（土）に設立総会・定期総会を行った
- ・年間6回発行される公民館だよりを活用し、自治組織設立に向けて、進捗状況を発信した。その他にも、インスタグラム、フェイスブック、告知端末放送の活用、高津公民館内に、地域づくり協議会についての掲示コーナーを設けるなど、情報発信に努めた



役員会



全体会



自治会長説明



住民説明会



②活動の成果及び効果

- ・ 名称「万葉の里 高津未来の会」とし、地域自治組織が立ち上がった
 今後も、課題に対して出来る事から取り組み、中長期的に高津全体の地域課題解決を目指します

4. 残された課題と今後の提案

- ・ 今後の活動をより具体的なものにするためにも、まずは各部会でしっかり協議し、役員会で3部会の活動内容を共有しながら今後は進めていきたい
- ・ 万葉の里 高津未来の会としての横の繋がり、連携の強化
- ・ 情報発信の徹底・住民周知

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は、地域自治組織を令和3年3月に立ち上げる事を目標とし、進めて来ましたが、実際目標よりも1ヶ月早く設立できたことに、とても嬉しく思います。これも、ご尽力いただいた準備会の皆さん、そして関わってくださる皆さんのお蔭だと強く感じています。高津地区にとって大きな一歩となりました。

ですが、設立までの道のりはとても険しく、まずは委員の皆さんに主体性を持ってもらうことがとても大変でした。そして、具体的な活動計画、設立に必要な資料等についても何度も何度も協議をし、その都度修正をしました。その結果、委員の皆さんの意識も少しずつ我がことになり、最終的には、高津にとってよりよい形に仕上がったように感じています。また、何度も行きつ戻りつしながらも協議してきたお蔭で、会としてのまとまりも感じられるようになりました。

自治組織設立は第一歩にすぎませんが、これからも出来る事から取り組み、地道に活動していきたいと思います。そして、高津地区住民みんなで「万葉の里 高津未来の会」を育てていってほしいと願います。

地域魅力化応援隊員 氏名 尼子 達夫

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

安田地区

2. 配置年月

平成27年5月から

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・平成29年3月18日に臨時総会を開催し地域自治組織を立上げ、平成29年4月24日（日）総会を開催し「地域自治組織安田地域づくり協議会」を設立、平成29年5月18日に自治組織として正式に益田市の認定を受けました。そして、平成30年5月1日付けで一般社団法人化し、平成30年5月24日に安田地域づくり協議会の財産の寄付を受け一般社団法人安田地域づくり協議会として再出発しました。
- ・令和2年6月18日一般社団法人安田地域づくり協議会総会を開催しました。令和元年度（第二期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の実績及び決算報告、監査報告、令和2年度（第三期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の事業計画及び予算について協議し承認可決しました。また、代議員の改選と理事全員が本社員総会終結と同時に任期満了退任することになるので、これを改選する必要がある旨を述べ、新代議員と新理事を紹介し議場に諮ったところ、全員一致で承認されました。
- ・今年度の取組は、前年度同様に「やすだ村ええもん市」「史跡遺跡整備」「環境整備」「地域内買物支援」の非営利事業と、営利事業の「地域お助け隊」「パンカフェはあと運営」事業を予定しましたが、新型コロナウイルス蔓延防止のため「やすだ村ええもん市」は7月、10月、12月の3回共中止しました。「パンカフェはあと」は開業以来3年目の今年度も営業成績は順調に推移しています。11月には「安来市荒島交流センター」と「未来あらしま」の皆さんがJR荒島駅を利用した人の交流づくりの参考にしたいと、「パンカフェはあと」を視察されました。何よりも駅が素敵に活用されている様子を現地で実感することができたと喜んでいただきました。12月には匹見上地区から「匹見上清流の郷」の皆さんが同じく「パンカフェはあと」を視察され買物を楽しまれました。

『やすだ村ええもん市』事業

安田地域で生産された農作物、手作り品、加工品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生き甲斐づくりと地域活性化を図ります。今年度最初の開催は7月12日（日）でしたが、新型コロナウイルス蔓延防止のため中止としました。それ以後も10月11日（日）、12月13日（日）と開催の機会を窺っていましたが叶いませんでした。その代わりに規模を縮小して野菜を中心とした土曜朝市を月に一回石見津田駅で9時30分から11時まで開催し

ました。開催日はR2年7月25日、9月26日、10月24日、11月28日、12月19日の5回でした。



『地域お助け隊』事業

地域の高齢化が進み、作業が困難な住民に代わって有償で草刈り・伐採作業を代行する「地域お助け隊」を結成して6年目、需要が年々増加し、住民が安心して暮らせる環境づくりと作業従事者の生き甲斐づくりに貢献しています。現在登録作業従事者は、男性15名、女性5名、令和2年4月から令和3年1月までの受注件数は106件、うち草刈伐採作業が72件、庭木剪定作業が19件、墓掃除4件、その他11件です。



『史跡・遺跡整備』事業

旧山陰道の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み保存してきた先駆者たちの業績を周知する事で、地域の方に安田人としての誇りを持たせます。旧山陰道と丸山公園の草刈を2回実施しました。木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、大和ゴム～東町境、丸山公園の4地区で作業しました。

第一回目 R2年6月28日(日) 7:00～9:00 参加者: 39名

第二回目 R2年10月18日(日) 7:00～9:00 参加者: 35名



『地域環境整備』事業

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に暮らせる環境を創ります。

・遠田川河口付近の雑草の刈払い、漂流物の回収除去を行いました。

第一回目 R2年6月21日(日) 9:00～11:00 参加者: 1名



『パンカフェ運営』事業

石見津田駅内の「パンカフェはあと」は、地域内外の皆様に愛され平成30年4月オープンから3年目を迎えました。この「パンカフェはあと」は、石見津田駅舎を改築した店舗と設備一式を「一般社団法人安田地域づくり協議会」が益田市から借り受け、パンカフェ運営を個人の方に委託しているものです。営業日は原則、毎週水、木、金、土（但し、毎月第三土曜休業）の10時から15時までです。また、毎週木曜日は市内の中西地区、美都地区、小野地区、匹見地区へ順番に訪問販売したり、各地区で行われるイベントにも積極的に参加し売上高アップに尽力しています。



『地域内買物支援』事業

移動手段を持たない高齢者などの買物困難者のために、梅寿会とひれふり苑の介護施設の車で職員さんが、地域のボランティアスタッフ数名と一緒に毎月第二、第四水曜日に地区内のスーパーでの買物をサポートして下さっています。地域の皆様からは感謝の言葉を戴いています。現在の希望者は津田地区の方のみですが、今後は高齢化と共に希望者が増えてくると思われます。



②活動の成果及び効果

各事業の取組について、「やすだ村ええもん市」事業は、当初は例年通り 7 月、10 月、12 月の年三回開催を予定していましたが、新年度に入って新型コロナウイルスが発生し全世界に蔓延してきました。ええもん市の場合、会場が公民館の集会室であり 200 名から 300 名の皆さんが来場されます。密集、密接、密閉いわゆる三密状態になることが予測されるので開催を断念、年間を通して一度も開催することができませんでした。それに代わるものとして 7 月 25 日（土）9 時 30 分から 11 時まで石見津田駅で小規模な野菜市を開催することにしました。ええもん市開催を心待ちにしていた人もおられ、喜んでいただきました。以後、8 月を除いて 9 月 26 日、10 月 24 日、11 月 28 日、12 月 19 日に土曜朝市を開催しました。「地域お助け隊」事業は、受注件数、収入金額共に前年度と同水準で推移しています。継続的に依頼される方が増えており、信頼して頂いていることが実感できます。今後も草刈、伐採作業等の依頼は高齢化と共に増加していくものと思われます。「史跡遺跡整備」事業は年二回 6 月と 10 月旧山陰道、丸山公園の草刈作業を地区の皆さんに参加して頂いて行っており、当地区の恒例行事となっています。「環境整備」事業は遠田川、嶽川の草刈と海洋漂着物の回収を行っています。最近は海水面の上昇の為か河川の水位も上がり河川内の草刈作業の回数が減ってきています。「パンカフェ運営」事業は平成 30 年 4 月 1 日開業以来 3 年経過しました。開業当初に比べると来店客数が少なくなっているのが気になりますが、その分外販で頑張っているのです、売上は順調に推移しています。現在、営業日を毎週水、木、金、土曜日としています。日曜日は各地域のイベントに出店する日として売上高アップを目指します。「地域内買物支援」事業は毎月第二、第四水曜日の二回の実施ですが、移動手段を持たない高齢者などの外出の機会と皆さんと語り合える場となっています。

4. 残された課題と今後の提案

後継者の育成は最も重要な課題です。平成 29 年 4 月に任意団体としての自治組織安田地域づくり協議会を立ち上げて四年、平成 30 年 5 月に一般社団法人安田地域づくり協議会を設立して三年経過しようとしています。スタッフはそれぞれ歳取っていきますので、いつまでこの状態を続けていけるのか心配です。「地域お助け隊」の作業スタッフはほとんどが 60 歳代以上ですが、50 歳代の加入がなかなか困難です、「パンカフェはあと」のスタッフも 60 歳を過ぎていて後継者の育成は急務です。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の支援をして六年が経過しようとしています。地域自治組織の収益事業は「地域お助け隊」事業と「パンカフェ運営」事業があります。「地域お助け隊」事業では、今年度後半から現場作業従事者に体調不良者が続出し現場作業者が不足する事態が度々あり、その都度代役を強いられてきました。事務作業と現場作業の両立は厳しいものがあります。パンカフェ運営ではスタッフ不在の時は外販に回ることもあります。体力的に厳しい時もありますが、より安心して住める地域にするため、もう一年間地域の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

令和２年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

鎌手地区

2. 配置年月

平成３０年４月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

- ・まちづくり活動特別補助事業 申請 実施
- ・役員会 実施
- ・思いやり部会
 - 「お助け隊」結成
刈払機・チェーンソー取扱作業者安全衛生教育受講
事業開始
 - 「移動困難者の支援」会議
鎌手地区全戸アンケート実施
 - 「鳥獣対策」特定外来生物防除 従事者証取得の案内・受付
会議（Ｒ３．２月開催予定）
- ・ひとづくり部会
 - 「子ども１１０番の家マップ」作成
- ・魅力づくり部会
 - 「coffee work shop」実施
部会での実施
近世山陰道ウォークでのコーヒー提供
コーヒー体験会開催予定（コロナウイルス感染状況による）
 - 鎌手小学校アルミ缶回収への地域からの呼びかけ
 - 鎌手魅力マップの作成
- ・かまて地域づくり協議会だより発行

② 活動の成果及び効果

《思いやり部会》

地区民の「困った」を解決するために『お助け隊』を結成し、農地や家屋周辺の草刈り、墓掃除などを有料で請け負う。「まちづくり活動特別補助金」で作業に必要な備品を購入した。隊員は刈払機安全講習を受講し、安全に作業に取り組むよう心がけている。７月から１２月の依頼は約３０件あり、リピーターもおられる。来年度は今年度より事業期間も長いので、新規の依頼、リピーターなど依頼件数は増加すると考えられる。

観光名所である「唐音水仙公園」の平日の駐車場誘導整理を地域団体からの

依頼を受け12月～1月に行った。パンフレット配布や協力金へのお願いをした。県内外から来られた観光客と交流することで鎌手のことを知ってもらえるきっかけにつながった。

〈刈払機安全講習〉



〈唐音水仙公園駐車場誘導整理〉



『移動困難者の支援を考える会』では現在、移動（買い物）について困っている方の数、もし支援を行ったら利用したい方の数を把握するために、鎌手地区全戸アンケート調査を行った。全体の約1割の方が現在「困っている」と回答。その内の約7割の方が支援を「利用したい」と回答された。これらの内容を基に今後対策を考えていく。

《ひとづくり部会》

見守りの充実を目的として「子ども110番の家マップ」を作成。子ども110番の家について、子どもも大人もよく知ってもらい、地域ぐるみで見守りができるよう取り組んでいく。登録されている方への取材をして、どの場所があり、どんな人がおられるのか、子ども達にわかりやすく親しみやすいマップになるよう、家や人の写真を載せるなど工夫する。来年度、鎌手小学校児童に配布し、地区回覧をする予定。

《魅力づくり部会》

かまての魅力を知ってもらい、地域団体と協働して世代間交流と定住促進を図ることを目的とする。「まちづくり活動特別補助金」でアウトドアやコーヒーに関する備品を購入した。鎌手の魅力スポットで、場所を変えてコーヒーを淹れながら地域の魅力を発見、再確認し、若い世代間の交流を行う計画を立てていたが、コロナ禍により、地区のイベントなども中止となり地域団体との協働も計画

〈近世山陰道ウォーク〉



通りには進まなかった。しかし、この状況の中でもできることを話し合い、オンラインでの会議も開催した。山陰道鎌手保存会主催の近世山陰道ウォークでは参加者にコーヒーを提供した。

鎌手小学校のアルミ缶回収について、地域でお手伝いができることを協議している。鎌手児童クラブの子ども達に協力してもらい告知放送を使って地域の方へ回収の協力を呼びかけた。今後は回収の報告やお礼などのお知らせや、子ども達の声で地域の人を元気にできるような企画にもつなげていく。

「鎌手魅力マップ」を作成するために、地域からの情報をもとに実際に名所巡りをしている。レジャー、景色、史跡、お店など、自分達も知らなかった魅力を再発見しながら作成に取り組んでいく。

〈魅力巡り〉



4. 残された課題と今後の提案

設立して一年が経過した。コロナ禍で思うように計画が進まないこともあったが、各部会、地域のためにできることを考え活動してきた。地域の方々へも少しずつ協議会の活動を知ってもらえることができたが、役員や部会員にも地域で偏りがあるように、まだまだ地域によって理解に差があると感じている。多くの人に知ってもらい、参加してもらえるよう、回覧や SNS などを使い、情報発信をしなければならない。

部会員の負担が大きくなると継続できなくなるので、無理のない活動で楽しんでできる事を続けていきたい。

人それぞれ色々な意見、アイデアを持っておられるので、自由に意見を出し、話し合える場をこれからもつくっていき、地域の課題解決や、魅力ある「住みよい」鎌手のまちづくりにつなげていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は自治組織が設立され、お助け隊の結成など、新しい取り組みがあり決めることも多く、事務手続きなど不安でしたが、教えていただきながらひとつずつ作業を重ねていき、依頼から支払いまでの流れができました。わからない事ばかりで力になれず地域の方々にご迷惑をおかけしました。皆さまのご指導、皆さまが地域を思い行動を起こされる姿に導いていただきました。これからも鎌手の皆さまがお元気で活躍され、「住みよい」鎌手のまちづくりが進んでいくことを応援しております。

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

種地区

2. 配置年月

令和元年6月から

3. 活動の概要

①活動の内容

自治組織

◆ 災害対策部会

6月11日 第1回部会

7月21日 第2回部会

種地区自主防災会設立申請8月11日

7月30日 高齢者のみ世帯防災チラシ配布

10月1日 第3回部会

12月6日 種地区防災訓練

◆ 高齢者・子ども支援部会

7月22日 介護予防チラシ配布

9月16日 通所型サービスB（住民による支援）について

10月13日 高齢者ワークショップ 種 ing

12月1日 第1回部会

12月14日 高齢者支援に関する取組み（学習センター）

12月16日 匹見上視察研修

1月13日 介護予防通所型B申請提出、協議(高齢者福祉課)

◆ 定住対策部会

6月11日 第1回部会

3月4日 建設部建築課による空き家出前講座予定

◆ 農業振興部会

12月3日 「種だより」「ふるさと便」発送

12月18日 第1回部会

1月17日 第2回部会 現地にて

◆ 役員会

5月22日 第1回役員会

・総会について

◆ 総会

6月22日 書面表決のお願い（代議員）

その他

◆ 明誠高校キャリアサポート

6月 3日	第1回 種地区学習会
6月10日	第2回 あじさい園ウォーク、PR 案・課題解決策
7月 9日	第3回 今後の全日程決め
8月 6日	第4回 ペタンクチラシ配り
9月10日	第5回 高齢者との交流ペタンク
10月15日	第6回 農業体験
10月22日	第7回 種目決め、バレー下見
11月18日	第8回 高齢者との交流ふうせんバレー,打合せ
11月26日	第9回 餅つき、松永牛バーベキュー

②活動の成果及び効果

自治組織

<災害対策部会> 第1回

部会は、定住対策と合同で予算配分について協議。自主防災組織を設立し12月6日には高齢者のみ世帯

の避難誘導訓練と防災啓発活動を行った。講評では、NPO 法人防災支援センター桂木代表が訓練を重ね機能する組織の必要性を話された。その後の反省会では、大雨の状況下ではないので意識が薄い、公道から家までの移動距離があるので軽四輪駆動車などなるべく家に近い

所での誘導の必要性などの意見が出た。



<高齢者・子ども支援部会>

11月、つろうて子育ての一環で、4館合同『STORY OF Kamate』を行った。高齢者ふれあい配食は月1で実施。生活輸送事業としては令和2年4月より益田市介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービスD実施団体として活動を開始した。益田市東部・中部地域包括支援センターにケアプランを



作成してもらった利用者さんを対象に始めたが、口コミで65歳以上の利用者さんも徐々に増えていった。コロナ禍ということもあり、慎重に動き始めたが軌道に乗っていった。10月13日には、行政や他機関の力を借り高齢者が何を望んでいるかを導き出す種地区高齢者ワークショップ（種ing）を開催した。

その結果、各テーブルのファシリテーターがサロンの利活用について様々な意見を引き出し、問題点と課題解決に向けての糸口が見えてきた。出来るだけ多くの意見を取り入れるための次へのステップ通所型サービスBの申請に向けて進行中。



＜定住対策部会＞ 第1回部会は災害対策と合同で行った。空き家調査については、今年度はストップ状態なので引き続き来年度へ繰越しする。3月に空き家出前講座を実施予定。



＜農業振興部会＞ 12月、種出身者への「種だより」、まなびや工房による「ふるさと便」の発送。その後の第1回部会に於いて水田用水路の修繕、未耕作地の草刈りについての話し合い。ドローン調査・鳥獣対策・荒廃地解消活動・後継者担い手育成などについては昨年同様4～5年の長いスパンで考える。

＜役員会＞ 5月22日、収支予算案・事業計画案についての方向性の共有を図った。総会（書面表決）にて周知決定。

- ・訪問型サービスD生活輸送委員会について
- ・まちづくり活動特別補助金について協議



その他

＜明誠高校キャリアサポート＞

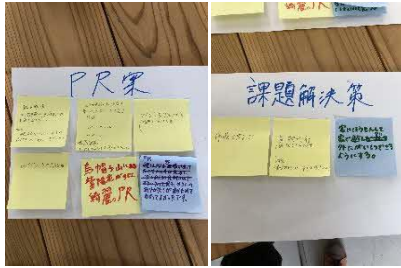


生徒は男子3名女子2名の構成で、初回の自己紹介では堂々とした話しぶりで驚いた。今回は、（一社）ユタラボの方々も加わり地域と高校生との協働・連携について一緒に考えていただき、視点が広がったことによってアイデアも広がった。また、感染予防に対して様々な配慮をしながらという難しい状況の中、

ペタンクチラシ配り 短期間で9回の訪問ということで高校生がどんな提案をしてくるのかワクワクした。第1回目は、公民館側から種地区の概要を説明し、課題と解決策を考えていただいた。2回目以降は、フィールドワーク



横断幕作成



課題と解決策

や活動を織り交ぜながらの計画を立てた。実行するにあたって暑い時期一日歩いてチラシ配りをするなど少しハードな内容もあったが、前向きな明るさで乗り切った。高齢者との交流については、ペタンク、カレー作り&会食という計画が進んでいたが、益田市の決定事項や状況から高校生が高齢者との会食を中止するという選択をした。キャリアサポートの大きなねらいであり社会人らしいと思う場面であった。地域の方から、一緒に話ができてよかった、転んだときに起こしてくれて大丈夫ですか？と声をかけてもらって嬉しかったなどの感想を聞いた。キャリアサポートは地域に元気とやさしさを吹き込み大成功に終わった。



農業体験



ふうせんバレー



餅つき、松永牛バーベキュー

4. 残された課題と今後の提案

- ・災害対策部会・・・自主防災組織については、今回は大雨による高齢者のみ世帯の避難誘導を想定した訓練を実施したが、今後年1回は何らかの訓練を実施する予定。
- ・高齢者・子ども支援部会・・・生活輸送委員会では、次年度より通所型 B を始めるにあたって、訪問型 D との両輪で進めていく。
- ・定住対策部会・・・空き家調査については、来年度まで調査・研究となっており空き家の地図化と一覧表で止まったままなので、次年度に持ち越しする。
- ・農業振興部会・・・課題の一つの荒廃農地解消については、水田用水路の修繕・未耕作地の草刈りが一歩進んだ。担い手育成については地区内だけでは難しいところがあり、新しく開拓が必要だ。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

この1年は、介護予防訪問型サービス D と明誠高校キャリアサポートが主な活動の軸になった。

応援隊員2年目になり、地域の人や様子が少しわかるようになり、特に4月からの介護予防事業に於いて駅前サロン通いが始まってからは、高齢者との繋がりが出来とても楽しくなった。道中、サロンのエピソードや感想を聞き場が和んだ。やはり健康長寿はコミュニケーションや笑いが必要だと思った。ある時サロンの出欠連絡を聞いている時、言葉の端々から地域の方は公民館や応援隊員に対して気を遣って協力していただいているように感じた。採用時にいろんな種を拾っていこうと決意していた自分が、逆に地域の方に支えてもらっていることに気付き、感謝が溢れた。介護予防については、前に進むと同時にフィードバックしながら地域が活性化していくのを願う。

地域魅力化応援隊員 氏名 三宅 望実

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

北仙道地区

2. 配置年月

令和2年9月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

- ・各部の会議や役員会への参加、会議録の作成。他参加した会議の会議録作成
- ・各部会で必要に応じてのチラシ作りや各家庭へのチラシ配布作業
- ・各部会のイベントの準備やイベントへの参加や、活動への参加

②活動の成果及び効果

(1) つながり部会

・Kita no-maー新・北仙道小学校ー

次世代育成や世代間交流などを目的に、月1回程度、地域の人（大人）と子どもたちが一緒に行うイベントに参加しました。今年は新型コロナの影響で2月～6月までイベントができない状況でした。7月、10月からは毎月イベントを開催しました。その際イベントの準備、チラシの準備、配付などを行いました。

(表) Kita no-ma の開催内容、参加人数

日にち	内容	大人	子ども	合計
7/12	図書室の椅子づくり1回目	10人	8人	18人
10/4	図書室の椅子づくり2回目	14人	6人	20人
11/21	お掃除ウォーキング×花壇づくり	21人	7人	28人
12/20	クリスマス会	14人	18人	32人
12/5	しめ縄づくり(全世代対象)	14人	0人	14人
1/17	どんと焼き(全世代対象)	15人	7人	22人





花壇づくり

クリスマス会



しめ縄作り

どんど焼き



・北仙道合宿（デイキャンプ）

今年は新型コロナの影響もあり日帰りのデイキャンプを行い、その様子を撮ったり、一緒に参加したりして楽しみました。デイキャンプで作ったキャンドルを独居高齢者の方に、デイキャンプの様子を冊子にしたものを作成し一緒に渡しました。冊子は楽しみにしている方がいると聞いていたので、喜んでいただけたと思います。残ったキャンドルは北仙道の文化祭の展示会で無人販売をしました。小中学生 18 人が参加し、地区住民等 15 人の計 33 人がこの合宿に関わりました。



今年は新型コロナの影響でイベントが昨年度よりイベント回数も少なく思っていたように活動ができなかった一年だったと思います。応援隊員として 9 月からの勤務になった私も何をしたいのか分からなかったのも、部員の方にサポートしてもらった部分が多かったと思います。ですが、イベント回数は少ないながらも地域の大人と子どもたちの交流できる場が少しでも持てたことはよかったことだと思います。

(2) 課題解決部会

・北仙活力隊による草刈り活動での収益から事務手数料として頂いたお金の処理を行いました。活動自体には参加できず、機会があれば来年度は参加できればと思います。

・北仙よめな会による農産物の生産加工活動

よめな会で活動をされる際は連絡をしてもらい、応援隊員として製造を一緒に行いました。また、柚子の収穫をよめな会の方と一緒にいき、柚子みその製造も一緒に手伝いをさせていただきました。活動当日、人数が少なかったため手伝いに

行ったら労働力となったので喜んでもらえました。いろいろと話もでき私自身も楽しく作業をさせてもらいました。



・ きんさい市

11月28日に北仙道のJA支所と駐車場を借りて、産直市を行いました。この活動は試験的に行いましたが、たくさんの方に来ていただき賑わいました（約100人来場）。POPを作ったり、販売集計台帳などを作成したりと初めて経験することだらけて、大変ではありましたがパソコンの知識がついたので良かったです。来年に向けてこの産直市を計画に組み込んでいけたらと考えています。



(3) 定住促進部会

・ 地域情報の発信

昨年度に引き続き、毎月の自治組織だよりの発行や Facebook での情報発信を部会の方と一緒に行いました。県外に出て行った方からのコメントなどもあり、地元を離れた方にはこの情報発信はよい効果があったと思います。また R3 年 1 月から Instagram も立ち上げて投稿をしました。パンフレットの第 2 弾も作成中で、新しいロゴマークを使った T シャツやしおりも今年度中には完成予定です。



・ 竹灯籠

北仙道公民館にて 11 月 15 日に竹灯籠を点灯し、当日は竹灯籠のワークショップも行い、匹見から足を運んでいただきワークショップに参加された方もいらっしゃいました。点灯してからは地域の方、子どもから大人までたくさん見に来られていました。また令和 3 年 1 月 16 日にも、イルミネーションと一緒に点灯を行い、この点灯のときにはあまり人が来なかったのもう少し PR に力を入れなければいけなかったなと思いました。



4. 残された課題と今後の提案

3年目を迎えた北仙道の明日をつくる会は、各部会それぞれアイデアを出し合っている企画を考えていますが、前年度と同じで子育て世代の参加がもう少し必要ではないかと感じます。つながり部会は特に子どもと大人とのつながりの場を大切にしています。子育て世代の親御さんたちの協力なしでは難しいところがあります。子育て世代の人たちが増えることで、もっといろんなことを子どもたちに伝えたり、活発的な活動をしたりできるのではないかと感じました。子どもだけでなく大人も巻き込んで一緒に楽しくなるようなイベントを考えていく必要があるなと感じました。

定住促進部会では、北仙道に来てもらうためには、移住してもらうためにはどうしたらいいか手探りでやっている状況です。北仙道のロゴマークを作りそれを活用してTシャツやしおりづくりに取り組みましたが、次はどんなことに取り組んでいけばいいのか、情報発信という部分でどんなふうに他の地区や県外などでやっているのか、やり方、方法など何か良い情報があれば部会員さんに報告していきたいと思います。

今年11月に行ったきんさい市は、今回試験的にいき、いろんな改善点や課題が見つかりました。きんさい市は地域の活性化にはとても良い活動だと思います。この産直市が地域の方の生きがいや、やりがいに繋がればと思います。ですが、今回この活動を手伝ってくださった方は、高齢の方が多く、体力的にはもう少し若い方も一緒にやってくれれば活動しやすいのではないかと思います。このきんさい市をやりたいという、やる気のある人材を探すのが、今後のきんさい市の活動を立ち上げるうえでも、重要な部分になってくると思います。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度9月から応援隊員として就任して6ヵ月が経ちました。私自身北仙道出身なので、職場の雰囲気などはとてもやりやすく、すぐに馴染めました。地域の方とも大体は知っている方が多かったので、楽しく仕事をさせていただきました。

ですが、仕事が慣れていくうちに地域の中での人間関係など、いろいろと課題が見えてきました。その中で自分は応援隊員として何ができるか、どうしたらいいのかを考えるようになりました。仕事にも慣れてきたので、自分のできる範囲で無理はせず、楽しむということを大切に、自分もやりたいことをどんどん提案していけたらと思っています。そして、自分と同じ世代の子が北仙道にもいるので、これから声をかけていけたらと思っています。

来年度は新型コロナがどう影響するか心配なところはありますが、地域の方ともしっかり話し合っ地域の方の気持ちをしっかりと聞いて地域を盛り上げていけたらと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 岡崎 友臣

令和2年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

豊川地区

2. 配置年月

平成26年4月1日から

3. 活動の概要

①活動の内容

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・地域自治組織の支援（各会議・定期総会の開催、運営の支援・調整等）
- ・まちづくり活動の支援（公民館との協働、関係諸団体との連絡・調整等）
- ・第2期まちづくりプランの作成（2020～2023）
- ・益田市まちづくり活動交付金（申請及び提携業務等）
- ・益田市まちづくり活動特別補助金（申請及びプレゼン説明等提携業務等）
- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援（会議、運営の支援・調整等）

II. まちづくり活動計画

- ・令和2年度の事業計画に沿った活動を中心に豊川らしい「ひとづくり・地域づくり」を目ざした活動を実施する。
キーワードは「楽しく」「子どもも大人も」「自分たちで」
- ・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
 - ★とよかわ寺子屋の運営 ★中高生の活動の支援（とよかわっしょい!!）
 - ★地区内外との交流 ★保小中の活動の支援 ★地域内外への情報発信
 - ★「とよかわの家」の管理運営
 - ★「マスダひとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営
- ・魅力づくり部会
 - ★空き家調査の継続 ★お茶プロジェクトの実施 ★歴史的遺産の保存
 - ★「とよかわゴンの運営管理」
 - ★安心して暮らせるまちづくり（自主防災対策・鳥獣対策）

②活動の成果及び効果

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・とよかわの未来をつくる会役員会の開催
 - ：新型コロナウイルスの影響により、第1回 とよかわの未来をつくる会役員会は中止とし資料にて事業報告。
 - ★定例総会の有無、ひとづくり部会、魅力づくり部会の組織体制。
 - ★役員会年間スケジュール等（毎月、第2火曜日開催）。
 - ：臨時役員会 令和2年 5月12日（火）19：00～
 - 豊川公民館にて役員6名 事務局1名 計7名にて開催
 - ★定期総会の説明（次第、事業報告、決算報告概要、規約の一部改正案、シナリオ等）。定例総会は開催せず書面表決にて対応。
- ・とよかわの未来をつくる会 定期総会（書面表決の実施）

- ：定例総会「書面表決」の結果
- ★各戸（約310戸）へ書面表決書を配布。
- ★163戸より回答、地区民の理解と協力により定例総会の議案は可決。
- ★令和2年6月28日付けをもって承認。
- ・とよかわの未来をつくる会 会議開催状況（令和3年2月12日現在）
 - ：今年度は新型コロナウイルスの影響もあり役員会10回、ひとづくり部会2回、魅力づくり部会2回（空き家・特定家屋研修を含む）開催。
 - ★第2期まちづくりプラン（活動計画）により、新たな地域づくりに沿った活動に取り組むための話し合いを実施
- ・益田市まちづくり活動交付金（650千円）
 - ：運営費及び事業費等、各部会の活動支援に充当。
- ・益田市まちづくり活動特別補助金（929,500円）
 - ：とよかわワゴンの車輛整備（電動ステップ・手すり・カーテン）及び車輛ラッピング（とよかわの未来をつくる会のロゴ・とよかわワゴンのロゴ）に充当。高齢者（子ども）に向けた車輛への整備により安全かつ快適な機能への拡充を図る。
- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援
 - ：ひとづくり部会と連携し現在2回の会議を開催。
- ★事業活動（とよかわっしょい!!・マスダひとまちカレッジとよかわキャンパス・親子体験プログラム他）の実施及び支援



とよかわの未来をつくる会役員会



とよかわワゴン

Ⅱ. まちづくり活動計画

- ・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
 - ★とよかわ寺子屋（名変：スタディスペースとよかわ）の運営
 - 英語教室をはじめとし、夏休みには川探検教室、ハンドメイド教室、水引教室、冬休みには書初め教室、凧揚げ教室等を開催。
 - ★中高生の活動の支援（とよかわっしょい!!）
 - コロナ禍により、主立った活動は出来なかったが、スクールコミュニティづくりの一環として小学校交流スペースの黒板の整備を実施。
 - ★地区内外との交流
 - 地区内の世代間の交流は小学校や公民館の各イベントにて図れたが、地域外への視察や地域外からの視察、大学からの実習が新型コロナウイルスの影響で中止になり実践できず。オンラインリモートでの交流も考慮したい。
 - ★「マスダひとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営
 - ひとづくり部会及び地区の女性（通称「わハハ！」）をメインに「色々な人を元気にしていく」企画・運営に取り組む。豊川のお茶を使った「お茶染

教室」や「紅茶づくり教室」等を実施。

★保小中の活動の支援

益田東中学校の職場体験・公民館体験、保小によるサツマイモ植え体験など「ふるさと教育」の活動を支援。

★「とよかわの家」管理運営

コロナ禍ではあるが、お試し住宅として1件利用有り。本来の目的であるUIターンの促進は図れた。東中の生徒や絆会（久々茂）、地区の方々の協力により裏庭の竹垣の整備が図れた。

★地域内外への情報発信

HPの作成、フェイスブック、島根移住フェスの参加等、豊川地区の情報発信を行う。

・魅力づくり部会

★空き家調査の継続

空き家・特定家屋の研修会の実施。新しい空き家カルテの作成によるデータの収集を依頼中。

★お茶プロジェクトの実施

遊休農地の活用の研究として始まった「お茶プロジェクト」では、季節に応じたお茶の楽しみ方を提案するワークショップ等を開催。

★歴史的遺産の保存

地区の方々の協力を得ながら遺跡見学路等の階段設置。倒木処理、除草作業により景観を損ねることのないよう環境整備や維持管理を行う。
益田市の日本遺産取組により豊川の史跡に関する資料等の収集。

★「とよかわゴンの運営管理」

益田市まちづくり活動特別補助金（929,500円）にて、とよかわゴンの車輛整備（電動ステップ・手すり・カーテン）、車輛ラッピング（とよかわの未来をつくる会のロゴ・とよかわゴンのロゴ）を実施。

百歳体操等高齢者介護予防や生活支援に繋がる事業での活用が図れた

★安心して暮らせるまちづくり（自主防災対策・鳥獣対策）

熊の生態等地域住民を対象とした研修会を実施する為、各自治会へ実施場所・日程等調整中。



お試し居住施設「とよかわの家」



紅茶づくり教室



遺跡見学路の階段設置作業

4. 残された課題と今後の提案

I. 地域自治組織設立に関わる業務

今年度は自治組織設立4年目となり第2期まちづくり活動計画（3ヶ年）の初年度として、これまでの3年間の取組を継続・発展させるため、事業計画と

合わせて、より活動しやすい組織体制へと整理し、まちづくりプランに掲げた地域の将来像「住みよい豊川・住み続けたい豊川」を具現化して行く為の取組を始めた。

地域自治組織設立5年目となる来年度は、「第2期まちづくり活動計画」の中期として、各事業の実施を視野に地域課題の整理・解決、情報の共有・周知等、地域運営の仕組みづくりの充実を図り、地域のために住民が心一つにして、夢と希望を持ち活力ある「とよかわのめざす将来像」に向けた「新しいまちづくり」に取り組みたい。

魅力あるまちづくりをめざすためには、これまでの「ひとづくり」を中心とした地域づくりと併せて、地域を維持していく仕組みの構築を図らなければならいと考えている。

II. まちづくり活動計画

昨年度、「とよかわの未来をつくる会」では、地域の将来ビジョンを掲げた「まちづくりプラン」及び、課題解決に向けて実施計画を定めた「まちづくり活動計画」を柱としてより良い形を模索しながら取組を進めてきた。今後は将来にわたり地域住民が安心して住み続けられる環境整備を図り、魅力あるまちづくりを目ざし、これまでの「ひとづくり」を中心とした地域づくりと併せて、地域を維持していく仕組みの構築を図らなければならいと考えている。

・ひとづくり部会

地域内外や世代間の交流の機会が少なく、地域の未来を担う次世代の人材が不足している。地域の交流・移住促進のため、地域内外の交流やひとづくりの推進が必要と考える。

・魅力づくり部会

後継者や人材不足により空き家や遊休農地が増加。また高齢者の増加や若者世代の流出により地域資源の維持が難しい。地域の活性化・魅力の創出のため空き家や耕作放棄地などの活用、特定家屋の把握。歴史的遺産の保存等環境整備や鳥獣被害防止の支援を図りたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記以外の活動として、下記の「地域づくり活動」への支援をさせていただいた。

地区のイベントのサポートとして、地域の現状把握もあり、各種イベントの参加。独自のパソコン教室「パソコンカフェ」（月2回）の開催。「とよかわの未来をつくる会」だより（隔月発行）の作成。

次年度も「まちづくりプラン」のテーマを目標として、「第2期まちづくり活動計画」の各事業の進行及び実施ができるよう各部会と連携し事務局としてサポートしていきたい。

豊川地区に配属されて早いもので7年が経った。地域の核として動きたいという理想を持ち始めてきているが、地域の現況把握をはじめとして今更ながら地区の方々との交流不足を実感している。もっと地域に入り込むためにもより一層の努力が必要だと実感した。

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の運営に際し、地区の方々の惜しみない協力（ボランティアを含む）に頭が下がる。

地域魅力化応援隊員 氏名 岸本 真樹

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

真砂地区

2. 配置年月

平成27年8月

3. 活動の概要

① 活動の内容

A. 自治組織支援事業

役員会・各部会・その他各種実行委員会、協議会等の会議に関わる日程調整・案内、次第・資料の準備、及び当日の進行・議事録作成、総会開催に関わる一連の業務、各部会のイベント開催支援、その他主体に関わる以下の業務。

ア) 交流拠点「ひら山のふもとカフェ tele-glue（てれえぐれえ）」運営
施設維持管理、及び地区内外からのイベント企画や周知等の支援。

イ) 小学校等複合化施設対応

今年度の真砂中学校再編閉校に伴い跡地に建設が予定されている小学校等複合化施設に関して、真砂地区学校施設耐震協議会から一切の業務を自治組織で引き継ぐこととなったため、市担当課との協議をはじめ、提案書の作成・プラン策定・住民への周知や意見のとりまとめ等の一連の業務を特別対策委員会のメンバーとして対応。

ウ) 市まちづくり活動特別補助金事業

昨年より世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染拡大防止策に伴い地域活動が停滞していることから、オンライン上で地域活動が継続できるよう、また終息後においても過疎地域ならではの不便不安を解消するためにICTを活用した地域づくりの推進を目的とした「リモート地域づくり整備事業」を企画。採択された活動を順次遂行中。

B. 公民館業務支援

公民館の日常業務やボランティアハウス等の子どもたちに関わる事業の支援。

② 活動の成果及び効果

A) 自治組織支援事業

ア) 交流拠点「ひら山のふもとカフェ tele-glue（てれえぐれえ）」運営

今年度はコロナ禍により営業できない期間が長かったため、とくに高齢者の利用が多い週2回のモーニングカフェは活動が難しく、来店が日課とな

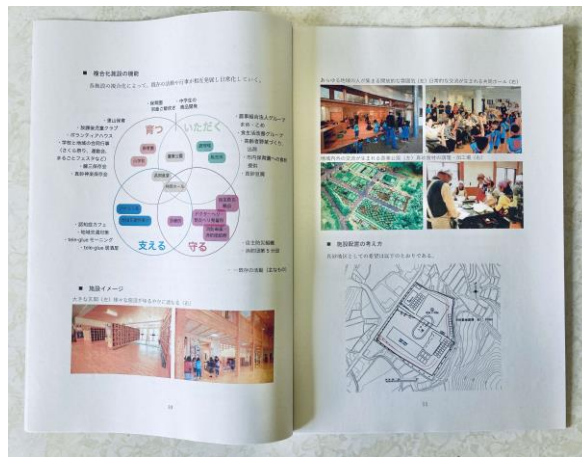


り楽しみにされていた常連客の中には体調を崩す方もおられるなど「食事をしながら様々な人と交流できる場」の心身に与える影響を再認識する機会となりました。

未だに感染症収束の兆しがみえないため、今後も飲食店ということで細心の注意を払いながらの活動となりますが、楽しみにされている方のためにも可能な限り開店できるよう努めたいと思います。

また、2月末には市内の飲食店の応援を兼ねる活動も予定しており、真砂に限らず困っている方や団体の支援ができるような施設でありたいと考えています。

イ) 小学校等複合化施設対応



耐震協議会が実施した全住民アンケートの結果にもとづき、小学校・福祉機能・行政・住民自治機能等を有する複合化施設が建設されることは決定しましたが、具体的に地域でどのように施設を利用したいのかを提案書にまとめ、“真砂の総意”として市に提出し採択されました。

その後、設計に入る前の段階で、施設での利用の仕方がイメージできるような平面プランや必要なコンテンツまとめた素案を地区内で作成し、市役所の各担当課とも連携をとりながら計画を進めています。



また、岡山県から専門家をお招きして小学生と保護者を中心とした住民や関係機関団体職員への意識醸成を図る研修会も実施（1月22日）し、47名が参加しました（内小学生9名・中学生3名）。

さらに、市から平面図案が示されたことから、今後地区住民向けの報告会の開催を予定しています。

ウ) 益田市まちづくり特別補助金事業「リモート地域づくり整備事業」

①真砂保育園生活発表会のオンライン配信（12月13日）

東京都等から地区内のパンフレット制作を目的に来町された方（7名）に対し、会場と公民館をつないで発表会をリモートで観覧していただきました。感染の不安もなく真砂流の子育てや地域性がより理解でき



たと大変好評でした。

② タブレットを使った写真展活動



今年度末で閉校となり解体が予定されている中学校の校舎等を、小学校の子どもたちがタブレットで撮影し3月下旬に写真展を開催予定です。

子どもたちはタブレットを使った写真撮影について学ぶだけでなく、写真展の企画から運営までを学ぶ機会となり、地域にとっては

解体前の校舎を懐かしむ最期の機会創出となります。

コロナ禍ということで公に集い交流することはできませんが、会場で写真データを閲覧できるようにする他、来場者には「お気に入り写真コンテスト」に参加してもらい、好評だった写真で写真集を制作し、地区内主要施設やふれあいバス（買い物バス）に常設するなど広く地域の方に閲覧していただく予定です。

4. 残された課題と今後の提案

ここ数年で人口減少がさらに進み、1歩前進したと思えば3歩後退という感じで課題の比重がどんどん増加しています。地域づくりの担い手が育つ前に高齢化によりベテラン勢が次々とリタイアし疲弊するなか、さらに今年度はJA支所の撤退・公共交通バス路線の廃止・真砂中学校の閉校と、重く厳しい現実がのしかかってきました。やはり人口が400人を切ると地域運営を地区内だけで自主的に行うのはかなり難しいとひしひしと感じずにはられません。

一筋の光として今後中学校跡地に小学校等複合化施設が建設されますが、それまでにいかに地区住民の意識醸成を図れるか。これが最後のチャンスといっても過言ではないと思っています。

同時に、子育て世代の移住者の受け入れ体制整備についていよいよ本腰をいれて取り組まなければなりません。地区内で解決するには正直時間がかかりすぎることもあり、今後はICTも活用しながらさまざまな方法で広く多様な人材に意見を求めるほか、隣接地区と同じ課題は共有し助け合うなどの意識転換が必要だと感じています。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は、先に述べたとおり平常時でも地区にとっては過去例にみないほどの大きな転機となる重要な年であるにも関わらず、コロナウイルス感染症拡大防止策によりイベントや会議の開催もままならないという前代未聞の未曾有の一年となりました。

しかしながら、何もせず手をこまねいては地域は衰退する一方ですし、とくに真砂中学校の最期の卒業生として残された3名の気持ちを考えるといたたまれない気持ちでいっぱい、とにかくこの状況でできる最善の策をとろうと、都度関係者で協議しながら地域活動を進めてきました。

結果、規模を縮小しながらも開催できた 2 つのイベントを通し、また中学校の先生方のきめ細かいサポートと中学生たち自身の心の成長、多くの地域の方々のご協力のもと、大満足とは言わずとも関わったすべての皆さんにとって一生の思い出に残る一年になったのではないかと思います。私自身も過疎地における「閉校」という重い課題に向き合い学ばせていただいた一年でした。

まだこれから卒業式と閉校式が控えていますので、最後までできる限りをつくしたいと思っています。

地域魅力化応援隊員 氏名 大畑 咲絵

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
西益田地区

2. 配置年月
令和元年6月から



3. 活動の概要

①活動の内容

西益田まちづくりの会 スローガン

“一人ひとりが輝く いいまちにしますダ！！”

「西益田に住むわたしたち一人ひとりが、役割を持ち、輝き、

いいまちにしていきたいと思います。」

●運営委員会

- ・「西益田まちづくりの会」の全体運営、重点項目の推進
- ・4検討委員会の活動の確認及び、統括、アドバイス等
- ・いろいろな地域団体や実行委員会との連携、役員での参画
- ・手作りイルミネーション実施の支援
- ・広報活動（イベント等を活用した宣伝、まちづくりの会だよりなど）
- ・まちづくり活動特別補助金の統括



●地域振興検討委員会 “つながりのあるまちにしよう”

- ・地域イベントを通して、人の「つながり」と「親睦・連帯感」を培う。
- ・住みよい西益田にするために、自然、文化、場所など、何でも活用する。

[活動計画]

賑わいの創出・文化の継承 … 賑わいの創出について検討する

拠点づくり・資源の活用 … 空き家などの活用を検討する

●次世代育成検討委員会 “ご縁を未来へつなげよう”

- ・各世代をつなぐ企画（取組）をして、豊かな文化や体験や人の思いを受け継ぐ。また、新たな取組も始める。
- ・交流（ふれあい）で「つながり」を深める。（縦・横・団体組織間の関係）

[活動計画]

世代間交流・世代間リレー … 体育大会への提案と文化祭への取組

地域の輪づくり … 異世代間のつながりの調査・研究

●地域福祉検討委員会 “声を掛け合って支え合おう『つろうて幸せに！』”

- ・地域の方々の不便の軽減のために、「困った」に応える取組をする。
- ・地域の「ふれあい」「笑い」をてこに、健康な心と体をつくる。

[活動計画]

くらしサポート … くらしサポートを推進するための調査・研究

心と体の健康 … 心と体の健康の情報提供と推進方法の検討

●地域安全検討委員会 “早め早めの行動で、あわてない安全なまちをつくろう”

- ・安全で安心して暮らせるよう、災害、事件、事故から生活を守る。
- ・鳥獣の被害を減らす。対策により生活を守る。

[活動計画]

安心・安全なまちづくり … 防災についての研究と取組

鳥獣被害を減らそう … アンケート結果に基づく取組

②活動の成果及び効果

●運営委員会

☆「西益田まちづくりの会」の全体運営

- ・今年度は、全体会も含め計7回の会議を行い、自治組織設立2年目の活動の統括や、4検討委員会へのアドバイスなどを定期的に行った。

☆まちづくり活動特別補助金の申請

- ・「映画 高津川」のロケ地・西益田アピール事業

2019年に先行上映された「映画 高津川」のロケ地のひとつとなった西益田地区をアピールしようと、各所に“ロケ地アピール看板”を設置した。残念ながら新型コロナウイルスの影響で映画の全国上映は延期となっているが、市内外や県外からもロケ地巡りで地区を訪れる人も出てきており、今後はロケ地を活かしたイベント等で西益田に更なる活気を生み、地域振興につなげていきたい。

☆「手作りイルミネーション」実施の支援

- ・今回も地元の中学生に参加を呼びかけ、地域の方々とのふれあいを楽しみながら活動に取り組んだ。西益田の夜に彩りを添えるイルミネーションを地区の方々は毎年楽しみにしておられ、今後も継続していきたい事業のひとつとなっている。

☆地元の小学生と一緒に「西益田の未来」を考える

- ・西益田小学校6年生の総合の授業に参加し、“西益田の未来のイメージ”を実現していくための提案を子どもたちと一緒に考えた。



●地域振興検討委員会

☆「空き家情報募集アンケート」の実施

- ・今年度は地区の課題にもなっている空き家問題に重点を置いて活動した。まずは地区の空き家の現状や数を把握するため、全戸を対象としたアンケートを実施し、情報を集めた。来年度以降は、主に住める空き家をピックアップし、リスト化していく。



●次世代育成検討委員会

☆「西益田 灯火祭」の開催

- ・“西益田地区のために何かしたい”という中学生の気持ちに寄り添い、8月から横田中学校の生徒の有志と協働で進めていた竹灯ろう企画「西益田 灯火祭」を11月に開催した。企画会議には中学生も参加し、大人と一緒に企画を作り上げ、当日は小学校や保育園、福祉施設、地域の方々など多くの方に作成協力いただいた竹灯ろう約1,400本を展示し、約800人の来場者が訪れた。このイベントを通して、地域の子どもから高齢者まで様々な「つながり」を創出することができた。



●地域福祉検討委員会

☆地域の困りごとを把握する方法について検討

- ・今年度は「くらしサポート」を推進していくためにはどうすればよいか検討し、来年度に「地域の困りごとアンケート（仮称）」を実施することとなった。会議ではアンケートの内容について具体的に話し合い、社会福祉協議会の職員の方からもアドバイスを頂きながら、原案が完成した。



☆非接触型体温計の提供

- ・新型コロナウイルスの流行に伴い、非接触型体温計を予算で購入し、豊田公民館や西益田公民館、地区の集会所などに提供した。

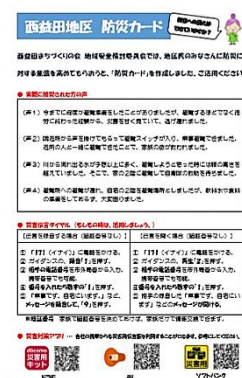
●地域安全検討委員会

☆「西益田地区 防災カード」の作成

- ・地区の方々に防災に対する意識を高めてもらおうと「防災カード」を作成し、全戸に配布した。実際に被災された方の声や、災害伝言ダイヤル、災害に備えてチェックリストなどを掲載し、普段から活用してもらうよう呼び掛けた。

☆鳥獣被害対策学習会 基本編

- ・外部から講師をお招きし、鳥獣の生態の説明や、被害対策のアドバイスなどをわかりやすく説明していただいた。来場された約30名の地域の方々は熱心に聞き入り、今後の鳥獣被害対策を考える有意義な会となった。



4. 残された課題と今後の提案

- ・前年度からの課題にもなっていたが、各自治会との連携がうまく出来ていない部分がまだまだある。2月に「まちづくり拡大合同会」を開催し、自治会長さんとまちづくり委員さんの情報交換や意見交換ができる場を設ける予定だったが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、各自治会でできる範囲でお願いをした。来年度こそは開催できればと思っている。
- ・まちづくり委員さんは全自治会から選出していただき、各検討委員会に割り振られているが、まちづくり委員さん本人の希望があまり反映されず、半強制的に選出されている現状がある。今後は、事前にどの検討委員会に入りたいかを聞き、できるだけ本人の希望が通るように、各自治会長さん方や運営委員会と相談しながら進めていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は自治組織設立2年目の年でしたが、新型コロナウイルスの影響により思うように活動ができなかった部分も多くありました。そんな中でも、なにかできることはないかと、地区のためにいろいろな意見やアイデアを出してくださるまちづくり委員のみなさんには本当に頭が下がります。

特に今年度は、まちづくりの活動に地元の中学生在が関わってくれたことが大きな一歩だったかと思います。“西益田地区のために何かしたい”という声があがったときには、まちづくりの活動に興味をもってきているのだなと嬉しく感じました。地域の大人も中学生もつながりを実感できたのではないかと思います。これからは若い世代の声がもっと聞けるよう、多世代を巻き込んだまちづくりを進めていきたいと思っています。

地域魅力化応援隊員 氏名 堀 江 宗 仁

令和 2 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

二条地区

2. 配置年月

平成 29 年 4 月 1 日

3. 活動の概要

① 活動の内容

平成 27 年 6 月 17 日の地域自治組織第 1 号認定より実質的活動を開始した「二条里づくりの会」は、令和 2 年 5 月 17 日（日）の「令和 2 年度 定期総会」にて、「令和 2 ～ 7 年度 元気なむらづくりプラン Part.2」と「活動計画」（6 カ年プラン）を承認し、新たな段階に入った。

その上で、基本的な

- | | |
|---------------|--------------|
| ㊦ 次世代を育成する事業 | ㊩ 住民をふやす事業 |
| ㊧ 高齢者にやさしい事業 | ㊪ 新たな産業を興す事業 |
| ㊨ 安全・安心な暮らし事業 | ㊫ 環境をよくする事業 |
| ㊬ 里山の環境を活かす事業 | |

の 7 本柱（各種活動計画）は引き継がれ、それに沿って本会が活動するに当たり、

- 益田市より交付される「まちづくり活動交付金」の申請書作成・提出、交付決定後の請求書作成・提出、及び「まちづくり活動特別補助金」の見積書提出依頼・収集、申請書作成・提出、プレゼンテーション用 PP（パワーポイント）作成、プレゼンテーション参加・説明・PP 操作、写真撮影・まとめ、交付決定後の請求書作成・提出業務。
- 上記「交付金」・「補助金」入金後の会計処理業務。
- 上記「交付金」・「補助金」にて導入（購入）した備品の材料検収、及び「物品台帳」への登録業務。
- 本会の「総会」・「役員会」・「部会」・「合同部会」開催時の案内ライン・メール送信、資料作成、開催時の説明・提案、写真撮影・まとめ、及び「議事録」・「議事要旨」の清書・押印受け回し業務。
- 各種事業実施時の資料作成、随行・参加、写真撮影・まとめ業務。
- 各方面からの視察団受け入れ日時等の調整、資料（主に PP）作成、会場準備、随行・参加・PP 操作、資料代等の会計（入金）管理、写真撮影・まとめ業務。
- 1～2 ヶ月毎に地区内全戸配付する「便り」の作成業務。
- 各種研修への参加、写真撮影・まとめ、復命書作成・提出業務。

等々に従事した。

また、上記の様に本年度の定期総会前（約 1 ヶ月半）には、

- 「令和 2 ～ 7 年度 元気なむらづくりプラン Part.2」・「令和 2 ～ 7 年度

元気なむらづくりプラン Part.2 活動計画」・「総会議案書」の「定期総会3部作」の原稿作成・推敲、印刷発注業務。

が重なり、多忙を極めた。加えて、地域魅力化応援隊員としての業務と二条公民館での業務も勿論あり、中々忙しかったと言える。

本会全体の本年度の活動を振り返ると、4月の年度初めより「新型コロナウイルス感染症」拡大防止の観点より様々なイベント・活動等が中止となり、8月の夏場くらいまでは例年通りの活動は出来なかったと感じるが、その分

○ 「物品台帳」の整理。

○ 「自主防災組織設立」へ向けての各種書類（たたき台）の作成。

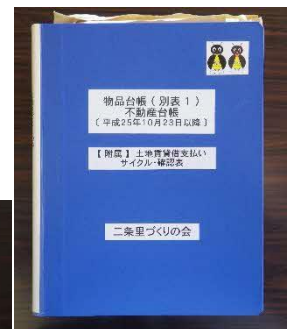
等々、本会のこれからの基礎を司る、主に「書類作成」面の難しい仕事にじっくりと取り組むことが出来た。



「令和2年度 定期総会」の様子
(令和2年5月17日)



定期総会3部作(左)



物品台帳の表紙(上)
と中身(左)

② 活動の成果及び効果

二条地区へ赴任して早や4年目となり、随分と地区住民の方々の顔と名前も一致し、かなり冗談も言える間柄になったと感じている。

1年目の「規約改正作業」、「視察受け入れラッシュ」と「平成29年度 中国四国地域鳥獣被害対策優良活動表彰」での岡山行き、2年目の「規約改正成就」、「ルーラルミーティング in しまね」と「平成30年度 ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰（団体表彰）」に関する「東京行きと受賞記念祝賀会準備」、3年目の「次期むらづくりプランの策定」と、中々忙しい4年間であったと感じている。

その中で本年度は、年度初めより「新型コロナウイルス感染防止対策」の観点より、特に4～8月期は本会の活動も停滞したように感じているが、昨年度に引き続き「自主防災組織設立事業」に注力し、くらし部会が「まちづくり活動特別補助金」を用いて導入（購入）された

○ 「防災用かまどセット」（約5升用）×3セット・・・㉠

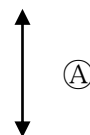
○ 「まかないくん 50型 基本セット」×3セット・・・㉡

を「事前活用」、いきなり災害時に使用するようになると戸惑うと思うが、「発災前の諸訓練」をしてその時に備えるべく、令和2年11月22日（日）の「炊き出し訓練」（「収穫祭」と同時開催）に竹田副会長（くらし部会・部会長）と協力して結び付けられたことで、

○ 米5升が炊けるだけの「薪の使用料」

○ 米5升が炊けるだけの「水の使用料」

○ 米5升が炊けるだけの「時間」



○ まかないくんで汁を作る時の「薪の使用料」 ◆ ⑧

等々のデータが収集出来たことは、今後の事を考えても基本的な成果ではなかろうか。

また、前記 ① の後半部分で書いたように、平成 30 年度定期総会での「規約改正」を受けての「視察受け入れ業務」、「物品の貸し出し業務」、「会計処理業務」や「議事録作成業務」等々は、かなり定着して来たであろうと思える点が成果である。

種々の業務がそれぞれ独立したものではなく、前後左右上下に密接に絡み合い関連するものであるが故に、全体としての地域自治組織の業務をだんだんとこなせるようになって来たこと自体が、自分個々としての成果、そして地域魅力化応援隊員としての成果ではなかろうか。



「全国過疎地域自立促進連盟」視察受け入れ
(令和2年10月14日)



「炊き出し訓練」の様子
(令和2年11月22日)

4. 残された課題と今後の提案

3 部会の「プラン Part.2、及び活動計画」での新しい計画には、

- ① 「竹パウダー」の堆肥化、販売ルート探しとブランド化
- ② 「サル囲い檻 第2弾」の建設
- ③ 「空き家」の減少促進、「UI ターン者」の誘致とサポート
- ④ 「二条米」のブランド化と本会による一元販売
- ⑤ 「二条ふるさと便」の継続受注と販売
- ⑥ 「お試し体験古民家住宅“つどい”」を活用しての交流人口の創出
- ⑦ 調査・実施・振り返りをサイクル化した「有害鳥獣対策」の更なる進化
- ⑧ 「放置竹林」や「耕作放棄地」の解消
- ⑨ 「福祉有償輸送や高齢者の見守り」等、新規事業への挑戦

等々が引き継がれ、中にはすこぶる順調な部門もあるが、最初の 5 年間を総括・反省、そして、成果が出た部門ならその「経験」を活かし、残念ながら出なかった部門ならその「失敗談」を咀嚼して、「プラン Part.2、及び活動計画」の残り 5 年間の活動に結び付けて行って頂きたいことこそが、最大の課題であると感じている。

次点の課題は、本来なら当初プランの 5 年間の内に「自主防災組織」を設立しようという計画だったのだが 1 年延び、「新プランの 1 年目の設立」にずれ込んだことである。ただ振り返ってみると、実際に動き出したのが平成 30 年度からであり、その間担当のくらし部会が議論を交わし、「まちづくり活動特別補助金」を用いて種々の防災機器（器具・備品）を導入（購入）し、地区内の各所に配備出来たことは、良い方に捉えると「ベスト 3 年での設立」だったと言えるかも知れない。

また、昨年度のこの報告書でも書き込んでいるのだが、

- 「地域マネージャー制の採用」と「法人化」

の課題である。昨年 6 月 4 日（木）に開催された定期総会明けの第 3 回 役員会では、上記の件を議題に挙げ、かなりの激論が交わされたのを覚えている。その内容としては、

- 「令和 3 年度以降に雇用を希望している」との、令和元年 12 月 22 日（日）の第 8 回 緊急役員会時に決議された「本会としての回答」は「継続審議」となり、「これからの議論次第では、不可となることもあり得る」との結論が出された。
- 「引き込む人ひとりの人生を請け負う訳だから、軽々に決めるべきではない」
- 「事業をする場合、人ひとりを雇うのには何もかも含めて“800 万円がボーダーライン”である」

等々の意見が出され、役員一人ひとりが真剣に考えておられることは十二分に伝わって来た。故に現在、「継続審議」となっていること自体が課題である。

最後に、これもまた昨年も書いていた「旧西南中学校の跡地利用問題」である。この問題については、令和 2 年度に入ってから当地区内で動きがあり、任意団体を作って独自に跡地のごく一部を借りられた方々がいる。本会上層部の限られた方の意見としては、

- この際本会として、「跡地の残り全てを無償で借り受けよう」ではないか。そして、各教室をその単位毎に貸し出して「賃借料」を頂くという手法は OK であるかどうか、これから教育委員会と話し合おうではないか。

との前向きなものが出来て来ている。昨年も書いた通り「ビッグチャンス」だと思っているので、そのお手伝いが必要とあらば、私の能力の及ぶ範囲内で手助けして行きたいと決意している。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

昨年の報告書からの反省点としては、上記したように、

- 「地域マネージャー制の採用」と「法人化」

の進展が見られなかったことである。

しかしこれは、見方を変えると、

- 前者を成し得ると、「会長の個人責任が一層増す」ことになるし、後者のメリットは昨年も書いたように、

- 「社会的信用の創出」・「流通資金の増大」・「専門性」

等々が出来上がるのではあるが、

- 地区民には、後には引けない覚悟が必要となることが、決してデメリットとは言わないが相当な決意がいるということである。

平成 29 年 4 月からこの二条地区に通い、私の能力の範疇でお手伝いさせて頂いたと思うが、その分色々とお世話にもなっていると思う。

早くも 10 年が経った「東日本大震災」以降、「絆」という文字がもてはやされ、インタビューでは何かと「自分 1 人では生きて行けず、多くの方々にお世話になっている」という回答が流行っているようにも感じるが、当二条地区での私も、ご多聞に漏れずその中のひとりである。

以 上

地域魅力化応援隊員 氏名 中尾 剛

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

美濃地区

2. 配置年月

令和2年4月から

3. 活動の概要

①活動の内容

【地域の魅力化に向けた取組支援（●地域自治組織3部会、◇地域内協力団体）】

● 結い学び部会：「共に学び、絆をつくる」

- ・地域マップ（見守り支え合い・防災）づくりのため調査・資料集め
- ・歴史の掘り起こしと継承事業（伝統行事・山城整備・史跡の紹介看板設置について協議）
- ・歴史ウォーク、スマートフォン勉強会、多世代交流グランドゴルフ大会、美濃の歴史の冊子化とウォーキングコース設定の検討

● てごすけ部会：「共に支え合える美濃」

- ・外出支援事業「てごすけ号」の運行支援（社会福祉法人と協働）
- ・収益事業：耕作放棄地対策（草刈機器の貸し出し）・おたすけ隊事業（軽作業・草刈りの請負）

● ええ出合い部会：「人をつなぎ、未来へつなぐ」

- ・SNS勉強会の開催、LINEの活用、空き家調査（危険家屋の把握と有効活用を模索）
- ・地区外への地区広報誌の郵送配布、地区PR映像の作製
- ・特別補助金事業の請負（まちの案内看板・桜田城展望台設置）

◇ ぼんぼりの会：「灯り」が照らす地域再生事業

- ・〔春〕流しこいのぼり〔夏〕ぼんぼりロード〔冬〕イルミネーション
- ・環境保全整備事業 / 地区内行事の実行支援

◇ ジャスミンの会：「癒し」がもたらす景観向上推進事業

- ・景観保全活動〔ヒマワリ〕、特産品開発〔油、石鹼、クリーム〕
- ・ひまわり祭りの開催により地区外との交流を促進

◇ 美濃ふれあいサロンの会：地域の「笑顔」で交流促進事業

- ・年3回のふれあいサロン交流会開催はコロナ禍の為に中止

他、公民館事業や各種会合。地域団体、地区行事の協力協働。



②活動の成果及び効果

- ◎歴史（地元学）をテーマに一貫した取り組みが継続できている。
- ◎安全・安心に暮らすための課題を共有できしており、改善の道筋が描かれている。
- ◎地区内の多世代交流を目的とした催しが数回ひらかれた。
- ◎収益事業の地区民への周知が徐々に図られた。
- ◎地区にゆかりのある地区外在住者との関係を続けることにより「感謝」を伝えられるまでになっている。
- ◎環境整備することで地域の景観が保全できている。
- ◎交流事業を地域外にも PR し、人を呼び込むことで関係人口の広がりにつながっている。

4. 残された課題と今後の提案

今年度はコロナ感染拡大のため、ほとんどのイベントや地域交流事業が中止となり、先を考えると不安に思います。

地域自治組織「はつらつ美濃の里」は設立4年目を終えようとしています。設立時に掲げた安全・安心で住みよい暮らしを維持するためのまちづくり活動計画を3部会の委員中心に事業展開しています、所属の委員ばかりでなく、多くの一般の地区民も自主的にボランティアとして参画されており、住み慣れた美濃地区を自ら守るという気概が感じられる地域です。

しかし、現在のコアメンバーの多くは70歳前後が中心で、5年先10年先を展望すると次世代の担い手育成が急務です。そこで次年度に向け、地域づくりに面白さを感じてもらい輪に入ってもらう目的で、多世代交流の機会を増やし、体験や講演会などソフトな対策を講じることで打開できればと思います。

また、地域の子どもたちに向けた働きかけも必要と感じます。「美濃に生まれ」「美濃のあした」をどう思うか、小中高生の目線で描く地域のあるべき姿や課題を語ってもらい、その思いを大人が受け止め一緒になって解決していく。地域活動の



5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

前任の応援隊員の後を受け、美濃地区に配属され、1ヶ月半になろうとしております。まだまだ協議会の取り組みや、人、現在に至るまでの状況など、解らない事だらけです。少しずつ地域の方々とも打ち解け、今後の活動に役立てたいと思います。まだまだ地域の現状も多く把握ができていない状況ですが、この地域に暮らす人の温かさや、互いに助け合う関係性の深さは、他地域にも誇れる財産であり、これから活動していく自治組織を発展させるうえで、大いに援用していきたいと思っています。

地域魅力化応援隊員 氏名 宮内 英之

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

小野地区

2. 配置年月

平成30年4月

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

小野地区においては、平成29年3月に「夢あふれる小野の里」を設立して以来4年目を迎え、応援隊員としての活動は、同組織の活動方針に沿って事務的な支援を行った。

「夢あふれる小野の里」においては、前年に引き続き“地域づくりと人づくり”、そして“3つの部の取組み”において事業を実施してきた。

① 地域づくりと人づくり

人材育成を進めていくために、研修会への参加や先進地視察に積極的に取り組むことを基本にすすめてきたが、「新型コロナウイルス」の影響により、例年定期に開催されていたイベントや研修会等が中止となり、参加する機会が少なかった。

とくに、毎年参加している「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」においては、全国各地団体からの事例発表を拝聴しているが、今年度はこのイベントも中止となり非常に残念であった。

② 各部の取組み

【防災環境部】

防災環境部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

■ 安全・安心なまち

◎ 「子ども見守り活動」の開始

戸田小学校児童の登下校時における見守り活動を主体的な活動内容として、地区内自治会より26名の隊員が選任され、4月より活動を開始した。

それぞれの地区ごとにおいて、指定場所での支援活動を行った。4月、5月においては、「新型コロナウイルス感染予防対策」による「臨時休校」等もあり、6月以降本格的な活動を展開した。

対応された隊員からの意見として、「子ども達から帰ってくる声（あいさつ）を聞き、逆に元気が出ます」というような、嬉しい報告をいただいた。

また、隊員から報告を受けた危険箇所への対応について、走行中運転手の目に



つくように「飛び出し注意」の警告「のぼり」を設置した。

■ 防災

地区内全域（22箇所）に設置した防災掲示板を活用し、地区民の防災意識を高める活動として、前年度に引き続き以下の取り組みを行なった。

ア、小野中学校生徒が作成した「防災標語」を掲示した。

イ、地区内のAED設置場所を記した「小野地区AEDマップ」を掲示した。



■ 衛生

◎「草刈り隊」の結成



地区内においては高齢化が進み、家周辺の草刈り等の環境整備ができなくなり困っている世帯が増えている。これらを解決するために、依頼者の要望に沿って作業を実施し、環境整備に努めることを目的として「草刈り隊」を結成し、4月より活動を開始した。

地区内自治会から21名の隊員が選任され、依頼された案件について作業を実施した。

（作業実績～1月末集計 13件）

■ 定住促進

◎空き家調査の継続実施

令和元年度に3回目の空き家調査を行い、危険な家屋の調査及び新たな空き家の「バンク登録」を推進した結果、今年度は6件の空き家バンク登録（飯浦2、小浜2、喜阿弥2）があった。

また、空き家バンク登録物件の中で、4件のIターン入居（小浜3、戸田1）があった。

今後2～3年に1回、空き家調査を継続して実施する予定である。

【健康福祉部】

健康福祉部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

■ 検診・健診の受診率向上に向けて



検診・健診の重要性について、昨年同様に「たより」や「おのつうしん」、「防災端末放送」を通じて、地区民へ呼びかけた。11月に開催された「小野地区ふれあい文化祭」において、パネルを使用して検診・健診についての記事を展示した。また、ポケットティッシュを配布する等の啓発活動も行った。

■ 「AEDマップ」の更新

地区内にAEDが設置されている施設等を記した「小野地区AEDマップ」を作成し、防災掲示板に掲示するとともに「たより」を通じて地区民に周知を行っている。

今年度は小野公民館をはじめとする3施設について、閉所時（夜間等）でも持ち出しができるよう室外用の収納ボックスを設置した。



【生涯学習産業部】

生涯学習・産業部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

■ 「小野探訪ウォーキング」の実施

“小野地区のことをもっと知ってもらおう”という趣旨で、担当地区を持ち回りで取組んできたウォーキング大会であるが、それぞれの地区を一巡して新たな手法を検討しながら準備を進めてきた。

しかしながら今年度においては、「新型コロナウイルス」の動向をみながら実施時期や手法等について検討を重ねたが、やむを得ず中止の判断となった。

■ 「おの産直市」の実施

前年度より本格的に取り組を開始し、今年度も年間3回の実施計画を立てていたが、「新型コロナウイルス」の影響により計画通りの開催が出来ず、12月に第1回目の「産直市」を実施した。

・第1回 ～ 12月19日（日）

午前10時から11時00分

会場：小野公民館

来場者～約80名（内スタッフ15名）

次年度においては、「新型コロナウイルス」の動向をみながら、更なる内容の充実を目指して取組んで行きたいと思う。



■ 「休日カフェ」の実施

地区内有志の方々の発起により活動を始めた同会も2年目を迎えたが、今年度は「新型コロナウイルス」感染拡大防止対策を考慮し、年度初め早々に関係者より今年度の開催は見合わせるとの報告を受けた。

次年度以降の取組において、「産直市」との同時開催ができるよう調整していきたいと考えている。

（2） 活動の成果及び効果

今年度は「新型コロナウイルス」の影響を受けて、例年地区内で実施している

殆どのイベントが中止となった。このことにより、当会の活動においても会議の招集ができない時期もあり、思うように物事が進まない一年であった。このような状況の中で、下記の事業に着手できたことは一定の評価ができると思う。

① 「子ども見守り隊」を結成し、見守り活動を開始した。(のぼり旗設置)

② 「草刈り隊」を結成し、草刈り作業を開始した。

③ 地区内に AED が設置してある施設について、可能な施設について室外管理に移行した。

上記 3 点の内容が新たに事業実施として実現した活動項目である。それぞれの項目において多々課題は残されているが、更なる内容の充実に向けて協議・検討を進めていきたい。

4. 残された課題と今後の提案

「夢あふれる小野の里」が設立されて 4 年目の事業年度が終了しようとしている。それぞれの部会（3 部会）においては多くの活動項目が掲げられているが、中々安易に取り組むことができない状況である。

次年度においては、現状のプラン（当初計画）に対する総括を行うとともに、更なる新規プランを作成する必要がある、大変大きな課題に直面するものと思える。

改めて役員をはじめ各部会員との連携を密にして、物事に取り組んでいきたいと考えている。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員となって、早 3 年目を終えようとしている。今年度は新型コロナの影響を受けて計画通りの取組が出来ず、気持ちだけが先行してまとまりのない一年であったように思える。一日も早く「コロナウイルス」が終息することを願っている。

事業面においては、新たな事業に着手すればそれだけ自身の業務量も増加し、繁忙期には対応できない時期もあった。自分がやらなくても部会員の中で担当者を決めれば良いのであるが、中々うまくいかないのが現実である。

もう一度原点に返って、組織運営の在り方等についても協議をしていきたいと考えている。

地域魅力化応援隊員 氏名 石川 祐子

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

中西地区

2. 配置年月

令和2年4月

3. 活動の概要

①活動の内容

・自治組織設立準備委員会

3月の設立に向けて会議・役員会等の開催・まちづくりプランを全戸に配布しました。

・なんでもお助け隊

中西ヘルスポイント制度の一環として平成27年から本格的に始動、作業内容は草刈り・庭の手入れ・病院への付き添い等を行っています。

・不法投棄見廻り隊

会議で意見交換をし、今年度は松原西線・松原の開パイをパトロールしました。

・花いっぱい運動

自治会ごとに花木を花壇や私道沿線に植栽していただいた。

・イノシシ用箱罾貸し出し

イノシシ対策として、箱罾5基を地区住民へ貸し出している。

・動物駆逐用手帳保安講習会

今年はコロナの為講習会自体はなかったものの、更新の手続きや新規の方合わせて29名おられた。

②活動の成果及び効果

・自治組織設立準備委員会

中西地区の自治組織の設立については、数年前から準備委員会による会議及び視察等を行い検討してきましたが、本年度中に立ち上げることとなり従来の自治会活動は残しつつ、地域課題に特化した中西らしい形の自治組織を立ち上げようということで、まちづくりプランや活動計画を作成し、概要を全戸配布し賛同を得ています。

- ・なんでもお助け隊

活動を開始して6年目となり、地区の高齢者の方にとって生活支援の一つとして定着してきています。中西ヘルスポイント制度と連動し相乗効果も期待できます。今年度はコロナの影響により草刈りはあまり出来なかったが、病院の付き添い依頼が増え民生委員をしておられる隊員が付添人として同行しています。

- ・不法投棄見回り隊

黄色のジャケットを着て見廻りすることにより、ゴミ拾いだけでなく環境美化への意識向上を促すことにもなっています。参加される隊員の方達にとっても意欲があり、見廻り隊の活動以外にも見廻ってくださっています。

- ・花いっぱい運動

自治会ごとに花木を植栽していただき美しいまちづくりに力を入れています。松原自治会では毎年少しずつ花が増え地域の景観向上に繋がっています。

- ・イノシシ用箱罠貸し出し

すべての檻が継続して貸し出し中となっており、地区の方に有効活用されています。

- ・動物駆逐用手帳保安講習会

動物駆除用火火の資格を更新・新規の方合わせて毎年30名前後の方が取得されています。今年度はコロナの影響により講習会が出来ませんでしたが、地区の皆さんの関心度は高く有害鳥獣の被害の多さが深刻な様子がうかがえます。



花いっぱい運動



自治組織設立準備委員会



なんでもお助け隊



不法投棄見回り隊



イノシシ用箱罠

4. 残された課題と今後の提案

来年度からは自治組織が設立されることとなりますが、これまでやってきた活動を基盤に少しずつ新たな取り組みを進めながらその都度地区の皆さんや委員の方達と意見交換等を行い、まずは自治組織の活動を地区の皆さんに浸透させていくことが出来ればと思います。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

最初は中西地区のことなど分からないことばかりで不安でしたが、地区の方々に親切にいただき、館長や主事さんたちに助けられながら何とか1年を終えられたと思います。

来年度から自治組織が立ち上がることもあり、これからさらに学んでいかないといけないことが多くなると思いますが、少しでも中西地区の発展に少しでも貢献出来たらと思っています。

東仙道地区

地域魅力化応援隊員 氏名 青戸 美奈子

令和２年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

東仙道地区

2. 配置年月

平成２８年４月

3. 活動の概要

① 活動の内容

- ・東仙道ちいき協議会全体

全体会議、東仙道花園ライトアップ事業

- ・互助部会

部会議、東仙道お助け隊事業 お買い物バスツアー事業

- ・地域活性化部会

部会議、四ッ山歴史ウォーキング、ふるさとカレンダー事業、東仙道桜を見る会、運動会、文化祭

- ・福祉健康部会

部会議、グラウンド・ゴルフ大会、東仙道寺子屋事業、みんなでパン工房（公民館共催）

②活動の成果及び効果

- ・東仙道ちいき協議会全体

新型コロナウイルスの影響で例年どおりの活動ができない中、文化祭などの実行委員会では、どのような方法であれば開催できるか模索し協議を重ねたが、開催には至らなかった。

その一方、まちづくり活動特別補助金を活用した「東仙道花園ライトアップ事業」で四ッ山各山頂ライトアップ（８月）、彼岸花ライトアップ（９月）、仙道バス停もみじライトアップ（１０月）、神宝山八幡宮もみじ（１１月）・鳥居ライトアップ（１１月）を年間を通じて行い、今後もアグリみと水仙（３月）、ひだまりパークみと桜（３月末）でのライトアップを予定している。

この取り組みは、ひとまるビジョン（四ッ山各山頂）や山陰中央新報（彼岸花）でも報道され地区内外に広く情報発信することができた。

また、四ッ山各山頂ライトアップは明誠高校キャリアサポートの生徒が四ッ山保存会の方と一緒にライトを設置したり、明誠高校の生徒が撮った写真を SNS にアップし情報発信するなど、限られた活動の中でも新しい視点で東仙道の魅力を伝える活動を続けた。

・ 互助部会

「東仙道お助け隊」では、草刈りや木の伐採などの依頼が14件、そのうち新規の依頼が3件あった。

困ったときに気軽に声をかけてもらい、お互いに生活をささえられるよう息の長い活動が続けたい。

また、(株)キヌヤさんの協力を得て行なっている「お買い物バスツアー」は、新型コロナウイルスの影響で2回中止となった。

新規利用者も増え、コロナの影響で出かけられない、または人と会う機会が減ったこともあり、感謝の声も寄せられている。



【東仙道お助け隊事業】



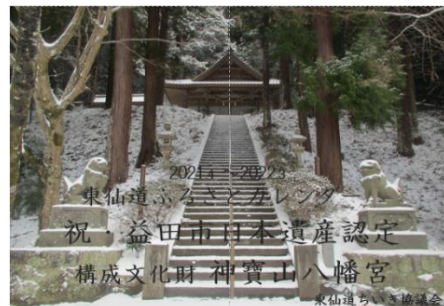
【お買い物バスツアー事業】

・ 地域活性化部会

東仙道桜を見る会、四ッ山歴史ウォーキング、運動会、文化祭は新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

5年目となる「ふるさとカレンダー事業」では、益田市の日本遺産認定を受けて、構成文化財のひとつである神宝山八幡宮をテーマとし、カレンダーを作成中である。

出来上がったカレンダーは、広報4月号と一緒に折り込み、全戸配布する予定である。例年多くの方から「地区外に住む親戚や友人にあげたい」との声もいただくので、今回のカレンダーも地区内外へふるさとの魅力を発信するとともに、日本遺産や神宝山八幡宮への理解を深めるきっかけになればと思う。



【ふるさとカレンダー事業】

・福祉健康部会

放課後に小学校の空き教室を利用し、地域の方に見守っていただきながら宿題を済ませて帰るという「東仙道寺子屋事業」が3年目となったが、新型コロナウイルスの影響で今年度は活動休止となった。

グラウンド・ゴルフ大会も中止したが、新事業として子育て世代の交流を深めることを目的とした「みんなでパン工房」を公民館と共催で行なった。4組の親子が参加し、親子間はもちろん子ども同士、親同士の交流を図ることができた。



【みんなでパン工房】

4. 残された課題と今後の提案

・東仙道ちいき協議会全体

地域の代表11名が部会員として各部会に所属し、会議を進めているが、事業の運営となると公民館運営委員や各自治会にお願いしないと事業が成り立たない状態である。今後も協力を仰ぎつつ、ちいき協議会の

体制、部会員構成、事業の運営方法についても引き続き協議が必要である。

- ・ 互助部会

「東仙道お助け隊」について、草刈りは繁忙期が限定されているので、隊員の負担が大きい。もう少し負担を分散させられるよう、引き続き隊員の確保に力を入れたい。

また、小さな困りごとに対応できるような体制づくりについて協議していきたい。

- ・ 地域活性化部会

「ふるさとカレンダー」については、写真提供者が少なく、選定も地域活性化部会員のみで行うため、狭い範囲での作成となってしまうのが課題である。

この取り組みは地域のみなさんから毎年期待の声が寄せられている。より魅力的な内容となるよう、テーマや写真選定方法等について、引き続き協議が必要である。

- ・ 福祉健康部会

「東仙道寺子屋」について、見守りボランティアの高齢化、減少が課題となっているので、新しいボランティアの確保、長期休業中の開催など寺子屋事業の広がり等について協議していきたい。

「みんなでパン工房」では参加者の意見を取り入れシリーズ化して続けていくとともに、新しい参加者の巻き込みを図りたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は新型コロナウイルスの影響でほとんどの事業が中止となり、ちいき協議会としての活動がなかなかできない1年となった。

そのような中でもできることを探しながらの活動となったが、「できない」と諦めるのではなく「どうしたらできるか」をもう少し考え、行動に移す事ができたらこんな時期でも実りある年になったのではないかと思います。

来年度もまだ新型コロナウイルスの影響でこのような厳しい時期が続くと思われるので、今年度の反省を活かし活動をするとともに、引き続きちいき協議会の体制や事業の進め方、会議の仕方等の工夫に取り組んでいきたい。

また、益田市の日本遺産認定をうけ、東仙道地区でも魅力的な観光スポットになりうる地域資源の掘り起こし等に取り組んでいきたい。

令和2年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

都茂地区

2. 配置年月

令和2年11月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

(1) 自治組織「ささえ愛都茂」設立

3月29日、都茂地域自治組織「ささえ愛都茂」が立ち上がりました。

4月15日、益田市役所において、地域自治組織認定通知交付式が行われ、地域自治組織認定証が交付されました。



(2) ささえ愛都茂の活動

ささえ愛都茂～3つの柱

◇暮らしを守る(暮らし部会)

住んでいる人が安心して暮らせる環境をつくります。

- ・防災マップ作成
- ・除雪活動
- ・自治会輸送

◇生活環境を守る(環境部会)

きれいな環境は、安全な生活、鳥獣対策につながります。

- ・お助け隊活動

◇地域の資源を活かし活気を創る(いきいき部会)

住んでいる人が生きがいを感じ、活気あるまちづくりをします。

- ・都茂鉱山跡の活用計画
- ・お土産品桜クッキー販売計画
- ・都茂のお宝マップ製作



暮らし部会



環境部会



いきいき部会

② 活動の成果及び効果

日本遺産「出前講座」

益田市が日本遺産の認定を受けたのを機に、市民に日本遺産の事をもっと知ってもらうため日本遺産「出前講座」を開催しました。

文化財課の方から詳しく日本遺産の話聞き、意見交換を行いながらこれからの都茂鉾山跡の整備に向けて話し合いました。

昭和 62(1987)年の閉山まで千年以上の歴史を誇る都茂鉾山です。多くの方に知ってもらうため、計画を立てていきたいと思っています。

都茂鉾山跡の活用

いきいき部会では、都茂鉾山跡を軸にしたまちづくりを進めていくこととし、進入路の路面整備、ベンチ、簡易トイレを設置し見学者の増および利便性を上げることとしています。

令和 3 年 3 月には、いきいき部会、直進会、ユタラボで都茂鉾山跡の清掃活動を行います。少しずつでも鉾山を知ってもらうために来年度も活動していきます。



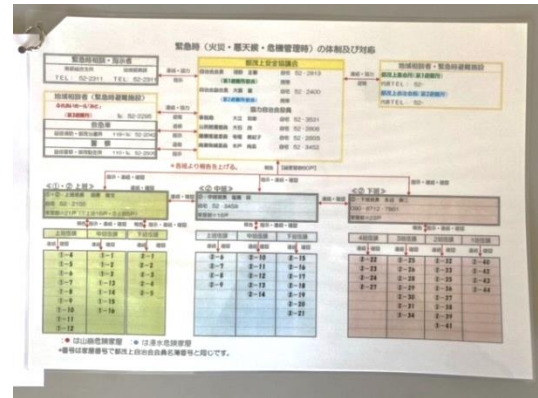
お土産品桜クッキー

地元企業の【(株)みと】といきいき部会の共同開発で桜クッキーも製作中です。イベントなどで都茂鉾山に訪れた方々にお土産品として販売する予定です。



防災マップ

災害時にどのように行動し避難すればいいかということをもとめた防災マップを作りました。これをもとに、これから周知を図ります。



除雪活動

積雪時に小学生児童の通学路を確保するために除雪隊を設立しました。暮らし部会では、地域のボランティアの方と除雪を行い子供たちの安全のため取り組んでいます。



都茂地区連合自治会輸送

都茂地区連合自治会では平成 26 年 3 月 10 日から地域の人たちの外出を支援する自治会輸送活動を行っており、年間 700 人を超える人に利用いただき、「とても助かっている」と喜んでいただいています。令和 2 年 4 月より都茂地域自治組織 暮らし部会が行っています。



お助け隊活動

環境部会では地域の困りごと支援として「お助け隊」を立ち上げ、地域の生活環境を守るお手伝いをします。主な活動として、市道や農道・林道・集落生活道の草刈り等を予定しています。12月にお助け隊の募集をし、現在の隊員人数は16人です。2月18日には刈払機取扱作業者講習を受講しました。



4. 残された課題と今後の提案

今年度から地域自治組織を設立し各部会それぞれ計画を実行しています。それぞれの部会の活動をもっと知ってもらうため、お知らせを広報に折り込んでいます。中には来年度にまたがって計画している活動もあります。地域の方にもっと知ってもらえるよう鉾山の活用に取り組んだり、お助け隊の活躍の様子を伝えていきたいと思います。暮らし部会では防災マップの周知を図ったり、地域の役に立てるよう防災訓練の計画も立てたいと思います。

5. 地域魅力応援隊員の活動を振り返って

今年度11月から応援隊員として勤め、3ヶ月が経ちました。都茂出身なので、職場も知っている方ばかりでとても働きやすく、楽しく仕事ができています。

初めての事ばかりですが、地域の方々のご年配が多いこともあり、ささえ愛都茂の活動をもっと分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか、人間関係をもっとよくするにはどう行動すればいいか悩むこともあります。コロナの影響でイベントがほとんど中止され、あまり活動が出来ませんが、これからの活動に向けてもっと地域の方々の意見を聞き、思いをしっかりと聞いていきたいと思います。

数ヶ月ではありますが、地域の皆さん、公民館職員の皆さんに助けられてきました。感謝でいっぱいです。これからも共に協力し合い、一緒に頑張りたいと思います。

匹見下地区

地域魅力化応援隊員 氏名 藤原 宗則

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
匹見下地区

2. 配置年月
令和元年8月1日から

3. 活動の概要

①活動の内容

(1) いいの里づくり協議会総会（書面決議）

コロナウイルス感染予防のため書面決議となった。



総会議事の様子



会長あいさつ



議事の様子

(2) 各委員会活動

I. 地域活性化委員会

・ふるさと活動モデルづくり事業の実施

明誠キャリアサポートの支援（延べ9日間）



うずめ飯作り



溪流釣り体験



わさび掘り体験・・・など

・「いいの里っ子塾」開催・・・令和2年12月20日

地域の方の協力で「しめ縄づくり」や「ポン菓子作り」、昔の遊び体験を行った。



注連縄づくり



ポン菓子作り



昔の遊び

今年はコロナウィルス感染拡大防止のため、多くの事業が中止され残念だった。

コロナ感染予防による中止事業： 春を食う会・「おかえりなさいのぼり旗」の設置
(※年末年始だけ実施)・高槻市サマーフレンドシ
ップ・盆踊り(一部実施)・匹見下地区ふるさと祭り

◎令和2年度計画予定事業：匹見の歴史文化講演会(渡辺友千代先生)

令和3年3月11日(木) 予定

II. 健康福祉委員会

・いきいき100歳体操・・・令和2年4月～令和3年3月

(48回：その内感染予防のため4回中止。参加人数延べ302人)



いきいき100歳体操

・ナイター・グラウンドゴルフの共催(6回開催)



グラウンドゴルフの様子(明誠高校キャリアサポートの参加)

コロナ感染予防による中止事業：匹見下地区民運動会・ふれあいボランティア訪問
応急救護講習会・ウォーキング

◎令和2年度計画予定事業：健康講演会(あすかクリニック：井上貴雄先生)

令和3年3月13日(土) 予定

III. 生活環境委員会

・鳥獣被害対策勉強会・・・令和2年9月26日



西部農林によるサル被害講習会の様子

・有害鳥獣駆除花火更新手続き・・・令和2年9月26日



花火更新手続きの様子

・いいの里緑化活動 匹見川河川敷の草刈り・・・令和2年6月～9月



地区の方による河川敷の美化活動の様子

コロナ感染予防による中止事業：研修会への参加・防災防火訓練・石見交通バスの利用促進

◎令和2年度計画予定：有害鳥獣被害対策講習会（二条里づくりの会）

令和3年3月6日（土）予定

②活動の成果及び効果

- 自治組織「匹見下いいの里づくり協議会」が5ヶ年計画の最後の年となり、次年度に向けて総括と新たな事業の計画を行う年となったが、新型コロナウイルスの感染予防のため総会は、書面決議となった。また計画されていた多くの事業が中止となり、事業が停滞せざるをえなかった。
その中でも、各委員会においては、できる事から実施していこうと3密を避け、「いいの里っ子塾」、「100歳体操」、「鳥獣被害勉強会」などを行い、自治組織の活動に地区の方の多くの参加を頂いた。
- 予定されていた事業の多くが中止せざるをえなかったが、その中で今後において実施可能かどうか？じっくりと考える時間はでき、次期の5か年計画に向けて新たな方向性を見だしつつある。

4. 残された課題と今後の提案

①残された課題

- 高齢化と人口減少により、協議会として実動できる人が限られてきた。
役員においても、高齢化や健康問題のため、会議に出席できる人が少なくなり、決議そのものができにくい状況となっている。
- 後継者不足で、多くの役員が地域の様々な団体と掛け持ちし、地域全体の活動が縮小傾向にある。
- 地域の健康意識と人口減少に対する危機意識は高いが、高齢化により実動できる人が毎年減り、意識と活動とのギャップが大きくなっている。

②今後の提案

- 自治組織の事業を大幅に見直し、「やりたい事」「できる事」を現状に合わせ作り上げる必要がある。
- 人口減少と高齢化により、地域住民の負担が増々増大し、特に、コロナ禍で事業が中止に追い込まれると、逆に協議会への参加の意識が薄れてしまう傾向にあるので、3密を保ちながらできるだけ事業を行い、参加意識の高揚を促す必要がある。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

- 応援隊員として1年半が過ぎたが、ようやく地域の状況が少しずつ見えてきた。人の繋がりや地域の繋がり、また反目しながらも事業に力を貸してくれる、素朴で実直な人たちが暮らす、この匹見下地域を、「誇れる自分たちの故郷」として後世に残せるよう微力ながら力を注いでいきたい。

地域魅力化応援隊員 氏名 高田 純子

令和2年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

道川地区

2. 配置年月

平成26年4月

3. 活動の概要

①活動の内容

■地域自治組織活動支援

☆組織運営の支援

- ・組織を構成する各種団体及び地域住民の連絡、調整、会議、運営の支援、研修会、講演会等の調整、実施。関係機関との連絡、調整等。

☆まちづくり計画及び活動計画に沿う活動の支援、公民館との協働。

- ・賑わいづくり ・ひとづくり ・暮らしの安心づくり

②活動の成果及び効果

■各種会議、研修会の実施

☆役員会、全体会議 企画委員会

☆各種地域活動企画会議



☆地域内交流事業

8月27日 役員会開催

- ・地区民運動会 ・地区民親睦交流会
- 年内の地区民事業は全て中止の決定

12月

年度内の事業は全て中止の決定



■《賑わいづくり》関係人口の拡大

☆人が集まる機会を創る活動

- 「ようこそ道川へ」整備事業（まちづくり活動特別補助事業）

- ・産直市出合いの里に隣接する旧ガソリンスタンドを整備し、日本遺産「石見神楽の里」が継承される地であること、また、益田市全体のPRに繋げる。



- ・明誠高校キャリアサポート活動と連携し、出合いの里看板をリニューアル
8月18日 明誠高校生徒5名と地区の中、高生4名とともに看板を作成



9月19日 看板設置箇所整備



10月8日 看板設置



○美濃地屋敷菊花展の開催 (10月23日～11月中旬)



☆地域の宝を活かす活動 地元の食の掘り起こし

- 猪肉を活用しての関係人口の拡大を目的に猪料理の試作。試食で縁を繋いだ。
試作月1回 (猪甘辛煮冷凍パック作成 派生：コロッケ、ハンバーガー等)



○ヤブツルアズキの活用を探る（縄文時代から食されていたという小豆の原種）



11月4日収穫 11名⇒乾燥⇒12月23日試食会 16名

☆里山の景観を活かす活動（豊かな自然と調和する美しい里山の保全、創造）

○道川清流さくらひろばの環境整備】草刈り 芝生も随分広がりました



○旧道川小学校・公民館周辺環境整備・美濃地屋敷・道の駅環境整備



☆情報発信 <http://michikawa.info>

ホームページ、フェイスブック等の随時更新の継続

英語神楽（道川神楽社中）PR動画配信

■《暮らしの安心づくり》

☆高齢者支援、助けあいのネットワークの構築

○大雨後の見回り、危険箇所の確認や声かけを実施 ○配食サービス運営支援

○高齢者サロンと介護予防を兼ね公民館と連携し（6月～12月毎週1回、計27回延べ333人）いきいき百歳体操を実施するなど、高齢者の平常時の暮らしを支援。



見守り声かけ



配食サービス話し合い



高齢者サロン

☆地域防災活動

- ・緊急情報キット確認…年1回の登録台帳の確認の呼びかけ、変更有には対応
- ・避難訓練は中止 家庭でできる地域防災意識の醸成を目的に啓発活動実施



避難訓練班 企画会議

10月 啓発用チラシ「災害に備えよう」全戸配布

■《ひとづくり》地域の繋がりを強める活動、人材育成

地区民交流事業（世代間交流事業）は新型コロナ感染拡大防止のため中止

4 残された課題と今後の提案

□今年度、まちづくり計画の最終年度を迎え、第2期を作成するにあたって、5ヶ年の活動の振り返りを行った。昨年「住民サロン」「軽作業支援」「生活交通」等、なかなか議論が進まない課題について委員会で話し合いを重ねた。それぞれ、現状を整理しながら、まず1歩踏み出す方向が定まった。

今年度、コロナ感染拡大防止対策により、イベントはもとより、地域内交流活動も中止とした。今後、計画どおりに進まない事業もあることが想定されるが、地域の方々の声を聞き、知恵を出し合って、今出来ることに柔軟に対応していく。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度、コロナの感染拡大防止のため、イベントや、地域内交流事業等が中止になり、先を考えると不安に思う時期もありました。

月1回の企画委員会で「こんな状況だからこそ、今やること、やめること、見直すこと、がしっかり話し合えるんじゃないだろうか。」という心強い意見が出され、前に進む話し合いができたように思います。

今年は、これまでとは違う視点で地区の中を歩いたせいか、「地域資源の掘り起こし」という点で発見もあり、地域の方からいろいろと教わることが出来ました。

道川に暮らすひとりとして、この豊かな自然の恵みを日々に生かす力をもっともっと身につけたいと改めて思いました。

地域の皆さん、公民館職員さん、関係機関の皆様に助けられ、支えられての1年でしたが、共に活動させていただいたことに感謝します。

○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成26年4月1日

益田市告示第77号

改正 平成27年6月12日告示第150号

平成29年3月13日告示第47号

平成31年3月29日告示第90号

令和元年5月1日告示第1号

令和2年3月31日告示第96号

(趣旨)

第1条 この要綱は、公民館等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(配置)

第2条 市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかに該当する団体の存する地区の公民館に応援隊員を配置することができる。

(1) 益田市地域自治組織設立支援事業補助金交付要綱（平成29年益田市告示第46号）の規定による補助金の交付対象となる団体

(2) 益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成27年益田市告示第11号）第5条第2項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）

2 前項の規定にかかわらず、益田市地域マネージャー等雇用交付金交付要綱（令和2年益田市告示第91号）の規定による益田市地域マネージャー等雇用交付金の交付を申請する団体の存する地区の公民館には、応援隊員を配置しない。

(任命)

第3条 市長は、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者、地域の実情に精通した者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者を選考し、応援隊員として任命する。

(身分)

第4条 応援隊員の身分は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第22条の2第1項第1号に規定する会計年度任用職員とする。

(任期)

第5条 応援隊員の任期は、その任命の日から同日の属する年度の末日までとする。

(所掌事務)

第6条 応援隊員は、配置される地区における第2条第1項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

(報告)

第7条 市長は、応援隊員に対し、別に定めるところにより月ごとの業務の内容について報告を求めるものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成26年4月1日から施行する。

(有効期限)

2 この告示は、令和5年3月31日限り、その効力を失う。

附 則 (平成27年6月12日告示第150号)

この告示は、平成27年6月12日から施行する。

附 則 (平成29年3月13日告示第47号)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、平成29年3月13日から施行する。

附 則 (平成31年3月29日告示第90号)

この告示は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (令和元年5月1日告示第1号) 抄

(施行期日)

1 この告示は、令和元年5月1日から施行する。

附 則 (令和2年3月31日告示第96号)

(施行期日)

1 この告示は、令和2年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、令和2年3月31日から施行する。

(経過措置)

2 この告示による改正後の地域魅力化応援隊員事業実施要綱の規定は、令和2年4月1日以後に任命する応援隊員について適用する。

発 行 令和3年3月

発行元 益田市政策企画局人口拡大課

〒698-8650 島根県益田市常盤町1番1号

TEL 0856-31-0600

FAX 0856-23-7708

E-Mail : jinkokakudai@city.masuda.lg.jp